

青少年国際交流事業事後活動推進大会 日本青年国際交流機構第40回全国大会 第31回青少年国際交流全国フォーラム

in 山梨 報告書



【日時】 11月9日（土） 13：00～21：00

- ・ 第1部 13：00～17：15
- ・ 第2部 17：45～21：00

11月10日（日） 9：30～12：30

- ・ 第2部（地域理解研修） 9：30～12：30

【場所】 一般財団法人 人材開発センター富士研修所

目次

目次	2
本大会について（大会テーマ）	3
内閣府 挨拶	5
日本青年国際交流機構（IYEO） 挨拶	6
一般財団法人青少年国際交流推進センター 挨拶	7
実行委員会 挨拶	8
山梨県青年国際交流機構 挨拶	9
日程（全体スケジュール）	10
第1部 開会式次第	11
第1部 閉会式次第	11
第1部 基調講演	12
第1部 分科会	19
(分科会1) Passion for WINE	20
(分科会2) Passion for HOSPITALITY	22
(分科会3) Passion for JAPANESE TRADITION	24
(分科会4) Passion to “Act locally and think globally”	27
(分科会5) Passion for REPLICA FOODS	29
(分科会6) Passion for MT.FUJI	31
(分科会7) Passion for HUMAN RELATIONSHIP	34
(分科会8) Passion for INTERNATIONAL EXCHANGE	38
第1部 会場一覧表	40
第2部 事業参加報告会・活動報告	41
第2部 地域理解研修オプションツアー	43
1 「富士山ツアー」	43
2 ソーシャルハウス「宝島」ツアー	45
参加者アンケート結果	48
会場周辺図	57
会場図	58
山梨県の紹介	59
実行委員名簿	60

本大会について（大会テーマ）

【1】 開催趣旨

内閣府、地方公共団体等が行う青少年国際交流事業の既参加者、国際交流に関心のある青少年等が全国から集まり、各地域における事後活動の推進状況を報告する。また、参加者間の全国的なネットワークの構築など事後活動を更に充実させるための方策について積極的に意見交換を行う。

これらのことにより、参加者相互の交流と研さんを図り、今後の国際交流活動及び地域社会における諸活動の推進に貢献することを目的とする。本大会は、内閣府青年国際交流事業参加後の青年の事後活動研修を兼ねる。

【2】 イベントのテーマ

「Love your calling with passion

～あなたの人生の使命を、山梨で見つめなおそう～

山梨県韮崎市出身の実業家、小林一三氏は自著にて「サラリーマンに限らないが」と前置きしたうえで、「社会生活において成功するには、その道でエキスパートになることだ」と述べられている。「ある一つのことに対して、その人でなければならない人間になること」が肝要であると。

小林一三氏は一元的な教訓を嫌い、「各人の持つ天分に磨きをかけ、光を発揮せしむることによって特殊の人物を作ること」を重視した。あらゆる事業は、そうした「人格の発露」によって成り立つと考えていたからである。

山梨県は、人口80万人弱の小規模な県である。人口減という表面上の数値のみに着目すれば、それはマイナスな要素かもしれない。しかしながら、自分の長所を活かした専門性の向上を目指す大切さこそが重要であるという小林一三氏の志は、今もこの山梨の地に息づいているように思う。

古き良きものの魅力を生かし、地域の人々を巻き込んでの古民家の再生、地域産業である「食」を通じたワイン文化の紹介、若者による地域の魅力や特色を生かした地域おこし、ふるさと山梨の風土や歴史をひもとき子どもたちへ向けた発信。今を重ねて生き、Calling（使命）を持って山梨県で活動している方々のPassion（情熱）、一人ひとりの魅力が輝いている。

今大会は、山梨県ではじめて開催する全国大会となる。

多様性を尊重する社会の実現と地域の魅力を継承し、より発展させていくために、私たちはこれから何をすべきだろうか。

それぞれの生き様や歩いてきた道に触れることで、一人ひとりが今の自分を見つめ直し、自らの生き方を創る。これから様々な活動に飛び込み自分の道を見定めんとしている青少年

にとっても、今まさに自分の道を究めんとしている大人たちにとっても、今大会が自分の中にあるCalling（使命）を知るきっかけとなり未来への一步を踏み出す一助となることを期待したい。

【3】日時・場所

日時：11月9日（土） 第1部 13：00～17：15 第2部 17：45～21：00

11月10日（日） 地域理解研修 9：30～12：30

会場：一般財団法人 人材開発センター富士研修所（山梨県富士吉田市新屋5丁目1-1）

【4】主催・共催・運営事務局・協力・後援

<第1部>

主催：内閣府

共催：日本青年国際交流機構、山梨県青年国際交流機構

運営事務局：一般財団法人青少年国際交流推進センター、第40回全国大会実行委員会

後援：山梨県

<第2部>

主催：日本青年国際交流機構

共催：一般財団法人青少年国際交流推進センター、山梨県青年国際交流機構

運営事務局：第40回全国大会実行委員会

後援：山梨県

協力：内閣府

内閣府 挨拶

青少年国際交流事業事後活動推進大会 山梨大会報告書に寄せて

内閣府大臣官房審議官

(青年国際交流担当室長) 由布 和嘉子



本年の青少年国際交流事業事後活動推進大会は、対面形式とオンライン形式の両方において、大変多くの方に御参加いただき、富士山がきれいに見えるすばらしい会場で成功のうちに終わられたことを、主催者の一人として心から嬉しく思います。

青少年国際交流事業事後活動推進大会は、日本全国から内閣府青年国際交流事業の幅広い世代の既参加青年や国際交流に興味のある方々が一堂に会し、事後活動の充実に向けて意見交換がなされる年に一度の機会です。私にとっては、昨年度鳥取県で開催された推進大会に引き続き2回目の参加となりました。大会中は多くの既参加青年の皆様と実際にお会いし、世代を超えたつながりを感じるとともに、皆様が各界や地域で活躍され、各地で国際交流や青少年育成などを活発に実施されていることを改めて強く実感したところでございます。

第1部の開会式で、長崎山梨県知事から御挨拶を頂戴し、本大会の開催を歓迎いただいたのを皮切りに、今年度のテーマ「Love your calling with passion～あなたの人生の使命を、山梨で見つめなおそう～」に基づく各プログラムが開始されました。

国際ジェンダー専門家・社会起業家である新津茉莉花氏を講師に迎えた基調講演では、「今を重ねて生ききる～私の使命、アフリカ・アジアでの実践をとおして～」をテーマにお話を伺いました。ご自身のルーツや国際協力活動を通じて得た「使命」を胸に、現在「情熱」を持って取り組んでいる外国の女性支援等についてお話をいただき、参加者の皆様の今後の活動の幅をさらに広げていただくヒントとなったものと思っております。

続く分科会では、山梨県を拠点に国内外で活躍されている方々を講師として、講演やディスカッション、文化体験等の様々なテーマで、8つのプログラムが実施されました。私は「山梨ワイン講座～『甲州』他ワインで語る日本の味わい～」の分科会に参加し、ワインを通じて皆様と意見交換をするとともに、地域の魅力を大いに感じることができました。また、私が参加した分科会を含め、いずれの分科会も地域の文化や産業、社会活動等の事例を通して、各参加者が「Love your calling with passion～あなたの人生の使命を、山梨で見つめなおそう～」を意識しながら学びを行うことができる、山梨県ならではのプログラムであったと聞いております。

参加者の皆様には、本大会を契機として、今後も国際社会や地域社会に貢献する活発な事後活動を展開し、交流の輪を大きく広げていただけるよう期待しております。

最後に、本大会の実現に向けて長期間にわたりご準備をいただいた佐野実行委員長、村松山梨県青年国際交流機構会長を始めとする実行委員会の皆様、山梨県を始めとする関東ブロック各県のIYEOの方々、山梨県及び富士吉田市の皆様に、厚く御礼申し上げます。

日本青年国際交流機構（IYEO）挨拶

日本青年国際交流機構第40回全国大会 山梨大会報告書に寄せて

日本青年国際交流機構（IYEO）会長 白木 邦貞



日本青年国際交流機構第40回全国大会山梨大会が無事に開催されましたことを心より嬉しく思います。まず、山梨県および山梨県青年国際交流機構の実行委員会の皆様、またご協力いただいたすべての関係者の皆様に、厚く御礼申し上げます。

今回の大会は「Love your calling with passion ～あなたの人生の使命を、山梨で見つめなおそう～」をテーマに掲げ、山梨の豊かな自然と歴史に触れる中で、参加者が自身の使命や役割について改めて考える機会となりました。特に、各分科会では多彩なテーマを通じて議論や学びが深められ、充実した内容となりました。また、地域理解研修では、山梨の文化や風土についての理解を深めるプログラムが実施され、参加者が地元根ざした視点で国際交流を捉え直す契機となりました。

特筆すべきは、大会当日に見事な富士山を望むことができたことであり、参加者一同にとって心に残る体験となりました。富士山の雄大な景色が、この地での学びと新たな気づきをさらに深めるものとなり、皆様の心に強い印象を与えたのではないかと思います。

また、山梨県青年国際交流機構の実行委員会の皆様が普段から地域に根ざした草の根の国際交流活動を継続してきてくださったおかげで、その確かなチームワークが大会全体に大きな力を与え、滞りなく運営することができました。皆様の情熱と努力がこの大会の成功を支えてくださったことに、改めて感謝の意を表します。

最後に、本大会にご協力いただきました内閣府、山梨県庁、そして一般財団法人青少年国際交流推進センターの皆様に深く感謝申し上げます。実行委員の皆様、本当にお疲れ様でした。

一般財団法人青少年国際交流推進センター 挨拶

日本青年国際交流機構第40回全国大会及び
第31回青少年国際交流全国フォーラムの報告書に寄せて

一般財団法人青少年国際交流推進センター理事長 駒形 健一



山梨での初の日本青年国際交流機構（IYEO）全国大会、大成功おめでとうございます。佐野実行委員長を始め実行委員会、関係者の皆さん、大変ご苦労さまでした。開会式では長崎山梨県知事から力強いメッセージを参加者皆さんに発信していただき、また、青空の下くつきり姿を現した霊峰富士に見守られながらすばらしいスタートを切ることができました。

基調講演では、社会起業家として活躍されている新津茉莉花さんに、国際協力活動や病気を克服した人生経験のお話を通じて今回のテーマである人生の使命を見つめ直すきっかけを与えていただきました。特に、参加者個々人が、将来の人生でやりたいことと、それを実現するための方法を、具体的にノートや色紙に書き出すことで、自らの人生の使命を確認する手がかかりが得られたのではないのでしょうか。私自身も推進センターの国際交流事業を通じて、日本や世界中の人たちを笑顔にするために、できることからやっていきたいと思いました。

8つに分かれた分科会では、ワイン講座に参加し、欧米のワインとは一味違った山梨ワインの良さを堪能させていただきました。幾種類もの山梨ワインをいただきながら、そのエレガントさは世界で勝負できる強みを持っていると感じた至福のひと時でした。

第2部では、対面交流が復活した最近2回の「世界青年の船」事業の参加青年から事業参加報告があり、事業で得られた経験を生かして船の仲間とともに自らの進みたい道にチャレンジしていこうという意欲を感じました。また、山梨県IYEOの報告では、「東南アジア青年の船」事業の受入プログラムや自主活動の紹介を通じて山梨県のIYEOメンバーの強い連帯感や交流活動への熱意が皆さんに伝わったと思います。

翌日の地域理解研修では、グループでソーシャルハウス「宝島」を訪問し、「一般社団法人ヒトナリ」の上田代表から、人のつながりで社会をゆるめるというコンセプトで進めている地域の高齢者の孤立解消事業「じばサポ」や、不登校の子ども達のためのフリースクールという居場所作りの活動についてビデオを交えてお話を伺いました。地域の居場所の現場に赴いて、社会課題は誰かがどこかで解決するものではなくみんなで何とかするもの、活動の原資としてお金だけでなく、物的資源や人の力など地域の善意を持ち寄って街ぐるみで社会課題に向き合う大切さを学ぶことができました。人生の困難を乗り越えて山梨に自身の使命を見つけられた代表の熱心な語りに皆さん感銘を受けていたと思います。

今回の大会では、参加者皆さんがその人生の使命を見つめ直す機会になったのではないのでしょうか。来年開催の青森大会に向けてそれぞれが具体的な行動に着手し、充実した事後活動を展開されることを願っています。

実行委員会 挨拶

青少年国際交流事業事後活動推進大会
日本青年国際交流機構第40回全国大会
第31回青少年国際交流全国フォーラム 実行委員長 佐野 康子



日本青年国際交流機構第40回全国大会山梨大会には、全国各地、さらには海外からも多くの皆様にご参加いただき、誠にありがとうございました。山梨県の皆様、そしてご協力いただいた講師の方々をはじめ、一人ひとりの皆様のご支援とご尽力のおかげで、本大会を無事に成功させることができました。実行委員一同、心より深く感謝申し上げます。

大会当日はまるで皆様の来訪を歓迎するような雲一つない快晴に恵まれ、美しい富士山がその雄大な姿を見せてくれました。このすばらしい景色に包まれながら、多くの皆様と充実したひとときを共有できたことは、私たち実行委員にとって何よりの喜びです。

本大会は、「Love your calling with passion ～あなたの人生の使命を、山梨で見つめなおそう～」をテーマに掲げ、開催いたしました。このテーマには、自らの使命に情熱を持って向き合い、その意義を改めて深く考えるきっかけとなってほしいという思いが込められています。

基調講演では、新津茉莉花氏をお迎えし、「ご縁を大切にしながら歩む人生」やチャレンジ精神に満ちたお話を伺いました。新津氏の言葉は、多くの方々の心を揺さぶり、前向きな気持ちを引き出す貴重な時間となったことと思います。また、分科会では、使命を持って活躍されている多彩な方々をお招きし、それぞれの分野で情熱を持って取り組む姿勢や思いを共有していただきました。参加された皆様にとって、「PASSION」を感じる瞬間が数多くあったのではないのでしょうか。さらに、第2部の報告会では、フレッシュな報告から「あの日、あの時」を思い出す時間、今後の意気込みを共有しました。「できる時にできる人が」というモットーを掲げ、一人ひとりを大切にしたい山梨県IYEOならではの活動もご紹介し、多くの方々に共感と励ましをいただきました。大会期間中、多くの方々とともに学び合い、熱い議論や意見交換を交わす中で、新たな気づきを得ることができました。さらに、世代や地域を超えた交流を通じて、参加者一人ひとりが未来への活力を見いだせたのではないかと感じております。本大会を開催するにあたり、国際交流や地域の魅力を発信するための議論を重ね、大会当日を迎えることができました。地域の魅力あふれる方々との出会いを通じて、改めて地域を見つめなおし、新たな発見を得る貴重な機会となりました。また、こうした学びや気づきが、今後の活動を継続する上での意義や力となることを改めて再認識しています。

そして、山梨県IYEOの仲間たちと一つの目標を共有し、絆を深めながら取り組んだことが、本大会を成功に導く大きな力となりました。多くの方々の支えにより、大会を無事に終えることができましたこと、改めて心より感謝申し上げます。

この貴重なご縁を大切に、ここから新たな一歩を踏み出してまいります。

山梨県青年国際交流機構 挨拶

日本青年国際交流機構第40回全国大会 山梨大会を終えて

山梨県青年国際交流機構 会長 村松 智子



「Love your calling with passion ～ あなたの人生の使命を、山梨で見つめなおそう」
ご参加くださったみなさま、ご自身の使命を、ここ山梨で見つめなおすことはできたでしょうか？

私は今回、この全国大会を通して、自分の使命を見つめなおすことができました。山梨県IYEOはチームワークに支えられています。2024年、山梨県で初めて全国大会を開催できたこと、そして成功裡に終えられた最大の理由はここにあります。内閣府青年国際交流事業の既参加青年という共通の原体験を元に、当大会実行委員がワンチームとなり、大会に向けて準備してきました。細く長く活動を続けてきたメンバー、前回のブロックイベント以来7年ぶりのメンバー、ここ数年で仲間になってくれたメンバー、そして今回は残念ながら都合がつかず、参加が叶わなかったメンバー。

山梨県IYEOという団体にかかわるすべてのメンバーが、当大会に心を寄せ、精一杯の力を出し切って準備してきました。そして、無事遂行できたことは、会にとって大きな成果となりました。

各人が得意を生かし、最大限に発揮してもらえること。常に誰かがサポートし、助け合える関係性。講師をお引き受け下さったみなさまもスタッフも、自身の強みを最大限に生かし、人生の使命を再確認できた時間となったことと思います。

開催にあたり、内閣府、山梨県、一般財団法人青少年国際交流推進センターをはじめ、ご協賛いただきました富士吉田市役所、富士河口湖町役場、基調講演講師新津氏、やってみるじゃん甲州かるた河西氏、分科会講師のみなさまに、たくさんお力添えをいただきました。皆様に「大会と一緒に盛り上げましょう。」と言っていただけでいたことが、どれだけ心強かったか。その重さは計り知れません。

ここまでの道のりは決してスムーズなものばかりではなかったけれど、支えて下さったみなさま、応援して下さったみなさま、そして山梨県へ足を運び大会を盛り上げて下さったみなさま、時間を作り、オンラインでご参加くださったみなさまのおかげで無事終了することができました。心から感謝の気持ちでいっぱいです。

青年国際交流事後活動に終わりはありません。推進していくのみです。今回のこの大会を機に、さらに活動の輪が広がり、ご自身の強みを生かして皆様の人生が輝いていくことを願っています。そして私自身も、自分の人生の使命を見つめ続け、邁進していく所存です。

「Love your calling with passion ～ あなたの人生の使命を、山梨で見つめなおそう～」

この言葉を胸に、今日からまた日々を紡いでいきましょう。心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

日程（全体スケジュール）

<第1部>

11月9日（土）

- | | |
|-------------|--------------------|
| 12:00～13:00 | 第1部 受付 |
| 13:00～13:25 | 第1部 開会式・全体集合写真記念撮影 |
| 13:40～15:00 | 基調講演 |
| 15:00～15:15 | 休憩 |
| 15:15～17:05 | 分科会 |
| 17:15～17:25 | 第1部 閉会式 |

<第2部 1日目>

11月9日（土）

- | | |
|-------------|---------------------------------|
| 17:30～17:45 | 第2部 受付 |
| 17:45～18:20 | 第2部 開会式、事業参加報告会、山梨県青年国際交流機構活動報告 |
| 18:20～21:00 | 懇親意見交換会 |

<第2部 2日目>

11月10日（日） 地域理解研修オプションツアー

- | | |
|-----------|---------------------|
| 8:20～9:30 | 集合、出発（各オプションツアーごとに） |
| 出発後～12:30 | 散策、解散 |

第1部 開会式次第

1. 開会の言葉

実行委員長 佐野 康子

2. 主催者挨拶

内閣府大臣官房審議官（青年国際交流担当室長） 由布 和嘉子

3. 共催者挨拶

日本青年国際交流機構 会長 白木 邦貞

4. 来賓挨拶

山梨県知事 長崎 幸太郎 様

第1部 閉会式次第

1. 主催者挨拶・講評

内閣府大臣官房審議官（青年国際交流担当室長） 由布 和嘉子

2. 次年度開催県へ日本青年国際交流機構（IYEO）旗引き渡し式

実行委員長 佐野 康子

青森県青年国際交流機構 会長 竹中 恵理

第1部 基調講演

◇基調講演者：新津 茉莉花 氏

◇テーマ：

「今を重ねて生ききる
～私の使命、アフリカ・アジアでの実践をとおして～」



◇ねらい：

新津茉莉花氏は学生時代の「文化人類学」の学びから、JICAでの国際協力活動を通して発展途上国が抱える社会課題と出会い、Calling（使命感）をもってそれらの課題に向き合っている。海外の現場で現地の方と寝食を共にし、共に泣き、共に喜ぶ中で、フィールド感覚と、厳しい環境を生き抜く根性・スキルを培ってきた。また、多様な国籍・背景の同僚と働いた経験により、多様性を尊重すること、日本人としてグローバルに活躍するための強みについても認識するようになった。現在は、日本、ニジェール共和国、バングラデシュ等の女性支援の活動を行い、山梨の地を拠点に、家庭を持ち、子育てをしながら社会起業家として活躍している。

基調講演では、新津茉莉花氏の活動の経験から参加者一人ひとりが自らの生き方を見つめなおし、自分らしさとは何か、それぞれの使命とは何かを考え、日々の生活や今後の国際交流活動へのヒント、地域の活性化につなげていく。

◆新津 茉莉花 氏 プロフィール：

国際ジェンダー専門家/社会起業家。

ジェンダー&ダイバーシティラボ Melati（メラティ）運営、

一般社団法人ジェンダー・多様性政策推進機構代表理事、2児の母。

山梨県市川三郷町出身。山梨英和高校、慶応義塾大学卒。

英国University of Sussex-Institute of Development Studies修了。

（ジェンダーと開発修士）

【主な活動歴】

●JICA 海外協力隊

・ニジェール共和国で産科フィスチュラ（※）の女兒・女性への支援活動を立ち上げる。
（※「出産合併症」の一つであり、分娩停止や分娩遷延の結果、血流の遮断による組織の壊死が母体に生じる症状のこと。貧しい国々を中心に未だに多くの患者が生じている背景には、公衆衛生上だけでなく、児童婚を含むジェンダー上の問題があるとされる。）

・ジェンダーと開発の専門家として東南アジア地域の人身取引対策プロジェクトを運営・監理

●UNICEF

・ジェンダー専門官としてインドネシア事務所、コートジボワール事務所、アジア太平洋地域事務所にて勤務

●内閣府

・男女共同参画局にて、上席政策調査員として、日本の政策の外国への発信及び外国の政策の日本への発信に携わる

◇講演内容

まず、新津氏から本講演の要点となるキーワードとして

『Komai yana da lokaci』

（こまい やな だ ろっかち）

というアフリカのニジェールに住むハウサ族のことわざの紹介があった。

このことわざは「すべてには時があり、人生の使命や役割は、予期しない出会いによって突然見つかることがある」という意味である。

JICAのインターンでニジェールに住んでいたときに人生を変える経験をした新津氏は、そこで出会った言葉『Komai yana da lokaci』を紹介し、最も伝えたいこととして『使命を知る上でも、使命を果たす上でも出会いやご縁がとても大切』であると述べた。

その後は下記の3つのテーマに沿ってワークを交えながら講演が行われた。

【テーマ1】今を重ねて生ききる

【テーマ2】私のCalling

【テーマ3】今後の決意！



それぞれのテーマについて語られた内容や実施したワークについては以下の通り。

【テーマ1】今を重ねて生ききる

○ワーク1「ご縁をつむぐ」（7分間）

使命を果たすうえで重要である「縁」について、今このときの積み重ねが人生を作りあげるといふことがある。今まさに全国大会の場に集まっていることは一つの「縁」であるため、その「ご縁をつむぐ」ワークとして、参加者が4人1組となって自己紹介をするワークを実施した。

○講演内容

講師である新津氏自身の自己紹介として、自身の使命である国際協力活動の背景にあるインドネシアとの縁について話があった。

- ・曾祖父家族が、戦前インドネシアに住んでいて戦後引き揚げてきた。そのため新津氏は、幼少時より家にジャワのおもちゃやミシンなどがあり、インドネシア料理を食べて育った。曾祖母と祖母など親戚からジャワでの生活の話を当たり前のように耳にし、ジャワは外国でありながら子どもの頃からすぐ近くにあるような身近な存在だった。
- ・インドネシアにはその後、国連の仕事で赴任し、日本人の夫とはインドネシアの地で知り合った。先祖や幼少期からのインドネシアとの縁が大人になった今でも続いていて、その海外との縁が発展途上国の社会課題を解決したいという自身の使命にもつながっている。

【テーマ2】私のCalling

○講演内容

新津氏のCalling（=使命）について、どのように使命に出会い使命を果たしてきたか、新津氏のこれまでの経験と現在の活動について話があった。

<中学時代>

- ・ダルニー奨学金に出会ったことがCallingに出会ったきっかけとなった。
- ※ダルニー奨学金：タイ・ベトナム・ラオス・ミャンマー・カンボジアを支援国とする経済的貧困で中学生教育を受けられない子どもたちを支援する国際的里親システム。子ども達には誰が支援してくれているのかを伝える1対1の顔の見える教育支援。
- ・「子供たち、女性たち、途上国の人たちを助けるために生まれてきたんだ」と思うようになった。

<大学時代>

- ・文化人類学を専攻していた。国際協力、国際開発、という業界に進んでいくなかで文化人類学の考え方を身に付けていたことは大きなメリットとなった。

※**文化人類学**：ある文化について、現地で比較的長期間生活をする中で研究する学問。

- ・当時住んでいた東京の池袋でバングラデシュ人と仲良くなり、農民のための銀行、グラミン銀行を知った。女性たちが銀行から少額の融資を受けて商売を始め、一家を支えているという話を聞いて興味を持った。そこで、村の実情を知るため現地に足を運び調査に行った。バングラデシュとはそれ以降縁が続いている。
- ・これらの経験により自分の目で見て耳で聞いて、生の声を聴く行動力が大事であると認識した。

<大学院時代>

- ・大学院時代にイギリスに留学した。そこで出会った仲間たちとは今でもつながっている。留学で出会った『縁』により今でも世界中に仲間がいる。
- ・ナイジェリア人のクラスメートから言われた「日本人であるあなたは恵まれている」という言葉に衝撃を受け、自分が日本人であることの意味を考えさせられた。その言葉がきっかけで「国際協力、弱い人のために身をささげるのが日本人である私の使命。国際協力の業界でプロになりたい」と考え、国際協力の道を志すようになった。

<JICA（国際協力を行う機関）インターン時代>

- ・国際協力の業界でプロになりたいという想いから2009年～2011年にニジェールでのインターンに参加した。



※**ニジェール**：アフリカの内陸国で、国土の2/3は砂漠の国。季節は雨季・乾季の2つで雨季は道が遮断され、乾季は50度くらいになる厳しい気候が特徴。

8割は18歳までに結婚しており結婚後の人生では子供を多く生むことを期待されている。15歳以上識字率は男性46%、女性3割くらいで10人中7人は読み書きできない状況。人間開発指標（HDI）は189位となっている。（日本は19位）

※**人間開発指数**：国連開発計画（UNDP）が毎年発表している指数で、国の生活水準や人間の健康、教育、所得などの側面を総合的に評価するもの。

- ・新津氏は農業局の配属で、ニジェールの農村で生活改善・村の学校での衛生指導にあっていた。バイクで村を巡回して話を聞く中で出産合併症「産科フィスチュラ」のことを知り、その患者の支援活動が将来の使命になる。協力隊の後半は、農業局から保健局そして保健省に異動し首都勤務を経験した。

- ・妊産婦死亡率が高いニジェールで、産科フィスチュラ患者を治療する施設を巡回していた。産科フィスチュラの女性たちと寝食を共にし、共に泣き、共に喜ぶ生活を過ごして信頼関係を築いた。日本のやり方をおしつけるのではなく、まず現地の人の話をよく聞くことを心がけていた。

※**産科フィスチュラ**：長時間の出産により赤ちゃんの体がお母さんの臓器を圧迫し、接地面に血流が流れなくなることで細胞が壊死し臓器に穴が開く病気。産科フィスチュラになる原因は出産で命を落とす原因と同じ。治療すれば治るものであるにもかかわらず、そもそも治療できることが知られていないという課題がある。

※産科フィスチュラの原因：「3つのDelay」（①発見の遅れ、②搬送判断・搬送の遅れ、③治療の遅れ）

<国連（UNICEF）勤務時代>

- ・多様な人たちの中での日本人のよさを知り、アジア人・日本人としての自分について考えるようになった。日本人としてグローバルに活躍するための強みについても認識するようになった。
- ・国連では多様な人たちと働くことになるが、多様すぎて自分の常識が非常識であることを実感した。他の人の考え方を批判せず尊重するという姿勢が海外で生きていく上では有効であると学んだ。
- ・コートジボワール勤務時に片側顔面麻痺となり、病をきっかけに心と体の声を聴くように考え方を改めた。3か月間に及ぶ闘病生活では、話せない、目から涙が出てくるので読めない、書けない状況で、自分とひたすら対話をした。
- ・闘病中は治るかどうかが不安な中、働き方や人生の優先順位を変える転機となった。長い目で使命を果たすには自分の心の声を聴いてあげないといけないと考えるようになり、自分自身の幸せも考えて生きるようになった。自分がまず笑顔で満たされていないと、周りを満たせないことに気づいた。

<現在：Gender and Diversity Lab Melati（Melati）>

- ・女性を笑顔にしたいという思いから、2021年から日本、ニジェール共和国、バンラデシュ等で女性支援の活動を行っている。産科フィスチュラの出産合併症の女性の支援を生涯にわたってやっていきたいと考えている。
- ・Melatiは、①アート作品、小物（一閑張り）を通じた途上国女性の支援及び②ジェンダー・多様性に関する法人向け研修事業を通じて日本を笑顔にすることを事業の2つの柱としている。
- ・社会起業家とコラボしたグッズを販売し、利益の一部を現地女性たちが経済的に自立するための現地での活動に還元する“縁”POWER PROJECTを行っている。

○ワーク2「Callingを知る」（7分間）

参加者自身のCallingを考えるワークを実施した。

「残りの人生でこれだけは絶対やりたいこと（自分のために、周りのために、社会のために）」と「それをするために今できる行動は何か」について内省し、手元の紙に記載した。

「残りの人生でこれだけは絶対やりたいこと」を考えるにあたっては、これまでの出会いを振り返ったり、自分にとっての幸せとは何かを考えたりするよう新津氏から助言があった。参加者は、それぞれ自分と対話し、真剣な様子でワークに向き合っていた。



【テーマ3】今後の決意！

○講演内容

新津氏自身の使命が日々発展していることと、今後の新たなチャレンジについて熱く語られた。

- ・ルーツのあるインドネシアとの友好を自身の使命として考えており、バリの助産院とのプロジェクトを推進したい。
- ・海外移住を検討しており、来年（2025年）マレーシアに移住する予定。
- ・女性を笑顔にする使命を果たすためのスキルアップとして、将来的にはアメリカ、オランダでマーケティングの勉強をしたい。

また、まとめとして「使命を知る上でも、使命を果たす上でも出会いやご縁がとても大切」ということについて述べた。

○ワーク3「今後の決意！」（7分間）

新津氏の講演を聞いて、参加者たちは今後に向けての決意をそれぞれ色紙に記載した。

色紙に記載する「決意」は漢字一文字、文章、イラスト等なんでも構わない自由なもので、講演の最後に色紙を掲げて写真撮影をした。



新津氏の熱意ある講演を受けた参加者十人十色の今後の決意が掲げられ、会場全体が熱気に包まれた。本全国大会の場集った「ご縁」の素晴らしさを再認識するワークとなった。

◇まとめ

基調講演では、Melati 代表 新津 茉莉花 氏の人生の軌跡や経験が、参加者に深い感動を与えた。JICA青年海外協力隊のニジェールで、産科フィスチュラの方と出会い、自分の使命を見出していった過程からの社会支援活動は、多くの人にとってインスピレーションとなったのではないだろうか。

講演中は、新津氏のエネルギッシュな言葉が会場を包み、参加者たちの中に『calling』の灯をともしたと感じられる時間。「ご縁がつないでくれた」という言葉は、人との出会いや繋がりの大切さ、ビジネスや人生においても相手を尊重する姿勢を象徴する。

新津氏の講演を聞き、参加者が自分自身を見つめ直すワークを行い、自分の心と体の声を聴いた。最後に、色紙に「今後の決意」を綴り、参加者の方々の表情は、その日の快晴の富士山のように、晴れ晴れとした表情が見られた。

参加者の声では、新津氏のチャレンジ精神あふれるお話に感動したとの声が多く寄せられ、快活でわかりやすい講演内容やワーク、中学生や高校生の若い世代にもぜひ聞いてもらいたいという意見があがった。新津氏の講演は、参加者の中に眠っていた何かを呼び覚まし、自分の進むべき道を模索する力を与えたようだ。



第1部 分科会

以下の8つの分科会を実施

(1) Passion for WINE

「山梨ワイン講座 ～『甲州』他ワインで語る日本の味わい～」

(2) Passion for HOSPITALITY

「天空の集落『ちかはぎ』でアメイジングな宿泊を！」

(3) Passion for JAPANESE TRADITION

「やってみるじゃん甲州かるた

～かるたを通して、人を、郷土を、世界を元気に！～」

(4) Passion to “Act locally and think globally”

「山梨県内での国際交流活動 “A Map for You”

～多様な価値観があれば多様なニーズが生まれる～」

(5) Passion for REPLICA FOODS

「食品サンプル講座～日本のよさを地域から発信～」

(6) Passion for MT. FUJI

「御師の家、富士講ツアー ～富士山信仰の足跡をたどる～」

(7) Passion for HUMAN RELATIONSHIP

「ソーシャルハウス 宝島

～富士吉田から始まる人との繋がり～」

(8) Passion for INTERNATIONAL EXCHANGE

「日本にしながら、国際交流の魅力を再発見しよう！」（オンライン開催）

(分科会 1) Passion for WINE

「山梨ワイン講座 ～『甲州』他ワインで語る日本の味わい～」

概要

日時：11月9日(土)15:15～17:05

会場：富士研修所 中研修室4

講師：新井 達司 氏

担当：関 和美、村松 聡

参加人数：30名

参加実費：2,000円（数種類のワイン、おつまみ）



ねらい

日本ワイン発祥の地である山梨は、ワインの名産地としてだけでなく旅行先としても国内外で注目度が上がってきている。分科会では、山梨が原産の「甲州ぶどう」から造られる「甲州」を含む数種類のワインをテイスティングしながら、長年インバウンド観光に携わった体験談や、山梨ワインの魅力について、新井氏よりお伝えする。また、山梨ワインの味わいや、食との合わせ方を含めた美味しい飲み方を楽しみつつ、地域の名産品を国内外に発信する方法について参加者同士で語り合う。

◆新井 達司 氏プロフィール

山梨県甲府市出身。元山梨県庁職員。県庁在職中は長くインバウンド観光を担当し、退職後は県内の大学・高校・団体にて英語講師を務めている。ソムリエ協会ワインエキスパート、全国通訳案内士（英語）、山梨通訳ボランティアネット（山梨SGG）会長、中国語検定2級。

実施内容

- 1 担当スタッフの自己紹介と講師の紹介（5分間）
- 2 講師による講義（60分間）
 - ・長年インバウンド観光に携わった体験談として、お客様の出身国によっては宗教上の理由などからワイン自体を受け付けないこともあり、ワインに限らず出身国によって異なる文化的背景には十分な配慮が必要であることを感じたこと、日本発のワイン、中でもその品種名が示すように山梨県産の『甲州』は、インバウンドのお客様の多くから「日本酒のニュアンス（吟醸香）が感じられる日本らしいワインだ」「和食とこんなに合うワインがあるなんて！」などのコメントをいただいたこと、などの紹介があった。
 - ・日本のワインと外国のワインの違いについての説明があった。日本のワインは一言で言うと、「エレガント」（おとなしい）に対し、外国のワインは「リッチ」。

- ・白ワイン（3種）の特徴について説明を聞きながらテイastingした。
- ・山梨では主に甲州種から白ワインが作られていて、ほうとうなどの郷土料理とよく合う。
- ・赤ワイン（2種）の特徴について説明を聞きながら、テイastingした。
- ・ワインはその土地の気候（冷涼か温暖か）により、色や味わいに変化する。
- ・山梨では主にマスカットベリーAから赤ワインが作られている。
- ・質疑応答では、販売されているワインの容器（瓶・紙・プラスチックなど）によって味は変わるのか、という質問があり、それに対し、基本的には変わらないと思われるとの回答があった。樽などで熟成させる場合は、もちろん味も香りも深みが出てくるとのこと。



3 紹介したワインの試飲と歓談（45分間）

- ・ワインを味わったり飲み比べをしたりしながら、参加者同士で歓談した。
- ・ワインの味は生産されるそれぞれの土地に根ざっていて、その土地の食とも相性がよい
ため、そのおいしさを周りの人に話したりSNSで発信したりすることが、地域の良さや
魅力を伝えることにつながるだろう。
- ・実際に各地を訪れ、味わったり体験したりすることが大切。

振り返り

参加者の声：

- ・ワインの味や香りや特徴を聞きながら、実際に味わうことができ有意義だった。
- ・用意された十種類ものワインの味を飲み比べられて、貴重な機会だった。
- ・白ワイン・赤ワインそれぞれについての特徴を知ることができて勉強になった。
- ・様々なワインの味を楽しめてよかった。

良かった点：

- ・参加者に何種類もの山梨のおすすめのワインをテイastingしてもらい、微妙な味や香りの違いを味わっていただき、大変楽しんでいただけてよかった。
- ・乾拭きんの用意があったのでボトルからこぼれたワインを拭くことができよかった。
- ・マスクを用意していたので、ワインをサーブする際に着用できてよかった。

改善点：

- ・ワインを注いで回るのが大変だったので、ワインの銘柄の数だけコップがあったほうが良かった。（白ワインはスタッフが参加者に注いで回り、赤ワインはコップに注いだものを配付した）

(分科会 2) Passion for HOSPITALITY

「天空の集落『ちかはぎ』でアメイジングな宿泊を！」

概要

日時：11月9日(土)15:15～17:05

会場：富士研修所 中研修室 1

講師：鈴木 ミキ 氏

担当：渡辺 千津子、志村 卓史

参加人数：20名



ねらい

鈴木氏は、里山の小さな限界集落を世界中からの憧れの場所にすべく、築185年の古民家で体験型の宿「ちかはぎ」を2019年より営んでいる。地域の伝統産業・湖でのアクティビティを取り入れた農泊が人気で、予約の7割を欧米からの旅行者が占めている。分科会では、世界に地域の魅力を発信する体験型宿泊施設「ちかはぎ」について伺い、どうすれば世界中の人を里山の小さな限界集落に呼び込めるのか、100年先まで続く環境保全とは何か等、運営者の思い・使命感に触れる。

◆鈴木 ミキ 氏プロフィール：

山梨県市川三郷町出身・在住。マミフラワーデザインスクールを卒業し都内のフラワー装飾会社を経て、県内でリゾナーレ他多数の婚礼花を担当。その後アミューズメント企業に入社しスーパーバイザーやプロジェクトリーダーとして、店舗の内装やイベントの企画、ゴルフ場のレストランの内装やメニュー作成にも関わる。2019年農水省のビジコン「INACOME」にてファイナリスト10名に選定され、2022年関東農政局版「ディスカバー農山漁村の宝」個人賞を受賞。さらに、近所の小学校にアーティストや専門家を招き、希少動物の保護活動のワークショップを開催している。2024年からは社団法人も設立し、100年先まで続く環境保全を計画中。

実施内容

1 講師による自己紹介及び講義 (90分)

鈴木氏の生い立ちから、幼少期の思い出、青年時代にいたるまでの、現在の考えのもととなる出来事や思い出について話があった。フラワーデザインスクールで感銘を受けた言葉との出会いや、パートナーとの出会い、鈴木氏の今を形作る数々の話があった。そして講義の後半は空の家の開業までの道のりと現在における取組みの説明があった。リラックスした雰囲気の中、参加者たちは鈴木氏の話に終始聞き入っていた。

2 質疑応答（15分）

参加者からは、鈴木氏が参考にした海外の宿泊施設は何かという質問や、外国人がどのサイトを使って宿泊を予約することが多いのかという質問があった。また3人で経営していることについて、大変ではないかと問われると、鈴木氏は、地域おこし協力隊を募集し業務を補助してもらっていると答えていた。

振り返り

参加者の声：

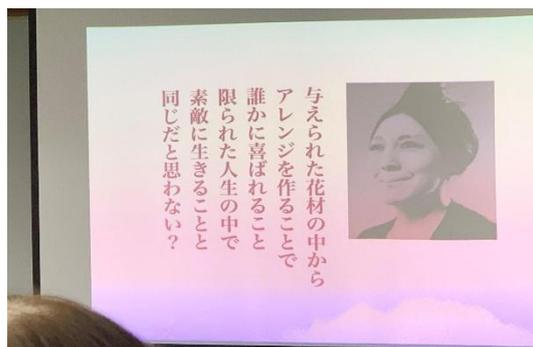
- ・分かりやすい講義だった。
- ・丁寧な説明と受け答えがとてもよかった。
- ・実際に宿泊してみたいと思った。

良かった点：

- ・鈴木氏の熱意と人間味のある105分間だった。
- ・本講義のために150枚以上のスライドを用意してくださり、鈴木氏のちかはぎ空の家にかける想いが参加者によく伝わっていた。

改善点：

- ・リラックスした雰囲気の中行われたが、人数も多くはなかったため、座談会のようにして、参加者同士の自己紹介やアイスブレイクがあってもよかった。



(分科会3) Passion for JAPANESE TRADITION

「やってみるじゃん甲州かるた

～かるたを通して、人を、郷土を、世界を元気に！～

概要

日時：11月9日(土)15:15～17:05

会場：富士研修所 中会議室2

講師：河西 貴史 氏

担当：平新 丞、楠山 紀子

参加人数：19名



ねらい

河西氏は70年以上にわたり群馬県民に愛されている「上毛かるた」に影響を受け、子供たちがかるたを楽しみながら郷土の風土や文化、先人の労苦や功績を学んでほしいという思いを込めた山梨県の郷土かるた「やってみるじゃん甲州かるた」を独自に作成。地域を丸ごと題材とする郷土かるたは、様々な事象をまんべんなく詠み込んでいるものが多く、ネット社会において自分の興味のある情報にしかアクセスしなくなるというパーソナライズからの脱却手段にもなり得る有効なツールである。分科会では、子供たちが作成に携わった外国を題材とする「かるた」を体験し、国際交流や国際理解の場での活用例を話し合う。

◆河西 貴史 氏プロフィール：

山梨県甲府市出身。高校・大学と山岳部に所属。四季を通じて、地元の低山から日本アルプスなどを歩くほか、ヒマラヤ、カラコルム、パミール高原の登山隊や偵察隊に参加する傍ら、富士山八合目で江戸時代から続く山小屋太子館の専属ガイドとして130回以上にわたる富士山登山経験を有する。現在は特別養護老人ホームやデイサービスを営む社会福祉法人の理事・総務部長。日本郷土かるた協会会員、信州大学学士山岳会会員。

やってみるじゃん甲州かるた URL <https://koshu-karuta.com/>

実施内容

1 講師自己紹介

2 アイスブレイク

小グループ（4-5人）で自己紹介しながら、山梨県ときいてイメージするもの3つ発表

3 「やってみるじゃん甲州かるた」で遊ぶ

小グループごとに分かれて、札の読み上げは講師。途中で適宜講師による札の解説あり。

- 4 かるたを通して知った山梨県の意外な一面を発表
- 5 講師によるプレゼンテーション
 - ・郷土かるたのもつすばらしさ
 - ・自分に興味がないことも広く浅く学べる
 - ・日本語を磨くことで他言語理解への素地を作る
- 6 世界を題材としたかるたで遊ぶ
 - ・パキスタンかるた、ウズベキスタンかるた、世界200カ国かるた（アフリカ、アジア、ヨーロッパ、アメリカandオセアニア）から小グループごとにやりたいかるたを選択。
- 7 自分の郷土を題材に、おすすめのかるたを1枚作る

振り返り

参加者の声：

- ・やってみるとみないとでは大違い！講師の先生が、読み札を読みながらの補足解説も面白くて興味をもち、帰宅してから初めて知った山梨の歴史について早速調べた。
- ・子どもたちが郷土を知る上で、かるたは有効なツールだと感じた。調べてみると、千葉県にも郷土かるたがあるので、県の学習をする4年生の担任になった際には、取り組んでみたい。
- ・かるたイコール子どものおもちゃではなく、社会人の交流のきっかけとしても活用できることが分かった。
- ・私は甲府に空襲があったことを知らなかった。最近のことだけを知り、山梨をわかったつもりでいた。昔の山梨があって、今の山梨があるのだから、昔のこともちゃんと知らなければいけないと思った。そして、昔の山梨を知り、今の山梨と関連づけることで、より一層山梨を知ることができると思った。また、悲しい過去にも向き合っていこうと思った。カルタの効果は山梨を知らない人に山梨をもっと知ってもらえるきっかけになるので、改めてカルタの凄さに気付かされた。県外の友達とやって、山梨を紹介してみようと思う。

良かった点：

- ・かるたをやる前とやった後と両方で山梨県のイメージを聞くことにより、まだ知らない山梨県がたくさんあることに気付き、その後の解説も興味を持って聞き入っていた。
- ・世界のかるたをやることにより、日本人とは違う絵の描き方や色づかい、知らない文化を知ることができ興味深かった。
- ・小グループ（4-5人）に分かれてかるたをしたのでお互いの顔が見えやすく、本気モードを出しつつも、和気藹々としていた。まさに遊びながら学べることを体感した。

改善点：

- ・最後に自分の郷土を紹介するかるた（絵札1枚、字札1枚）作り発表したが、時間が足りずに5人だけの発表となった。皆それぞれすてきなかるたを作り上げていたので、全員の発表を聞けたらなお良かった。



(分科会4) Passion to “Act locally and think globally”

「山梨県内での国際交流活動“A Map for You”

～多様な価値観があれば多様なニーズが生まれる～

概要

日時：11月9日(土)15:15～17:05

会場：富士研修所 中研修室3

講師：三森 なぎさ氏

担当：中澤 綾、田中 愛子

参加人数：13人



ねらい

英話教室を営む中で、地域に根ざした広い国際交流活動を行う実践例を伺い、地域社会における情報発信や国際交流の在り方について話し合う。

◆三森なぎさ氏プロフィール：

ベジタリアン・ムスリム向けの地域生活情報地図作成者。英語教室を営みながら、地域の清掃活動や農業といった多分野で活動されている。山梨県地域限定通訳案内士。青年海外協力隊キルギス派遣。Nagisa's International/English Class 開校。

実施内容

- 1 講師紹介
- 2 アイスブレイキング
今まで行った国の中で一番良かった国or一番行きたい国を参加者全員が紙に書いて簡単に発表
- 3 講師によるプレゼンテーション
青年海外協力隊で派遣されたキルギスでの話や現在取り組まれている活動についての説明
- 4 質疑応答
- 5 ワークショップ
4つのグループに分かれて、それぞれのグループ毎に実際に起こった出来事や地域で起き得る課題をテーマに、どのような解決方法があるのかポストイットを使ってグループ毎に議論した
例) ・ムスリムの人たち対応の学校給食を提供することができるかどうか

- ・地震が起きた場合、山梨に住む外国人たちはどのように対応したらいいか
- ・多くの外国人が入れ墨をしている中で、未だ入れ墨お断りの温泉施設が多いが今後どのようにしたらいいか
- ・運動会という日本文化を外国語学校で実施するためにはどうすればいいか

6 発表

約5分でそれぞれのグループ毎で話し合った内容や課題解決の結論について発表する

7 終わりの挨拶

振り返り

参加者の声：

- ・実際に三森なぎさ氏の活動や経験を通して、感じたことを聞くことができ、キャリアについても視野を広げることができた。
- ・実際に起こった出来事をテーマに話し合ったことで、身の回りで起きている課題に対して今自分には何ができるかという視点を持つことが大切だと知ることができて良かった。

良かった点：

- ・実際に起こった出来事をテーマに話し合ったことで、議論にもリアリティが増し、活発に意見交換をすることができた。

改善点：

- ・議論の時間をもう少し確保した方が、より深く課題の解決方法について議論が交わせたと思う。



(分科会 5) Passion for REPLICA FOODS

「食品サンプル講座～日本のよさを地域から発信～」

概要

日時：11月9日(土)15:15～17:05

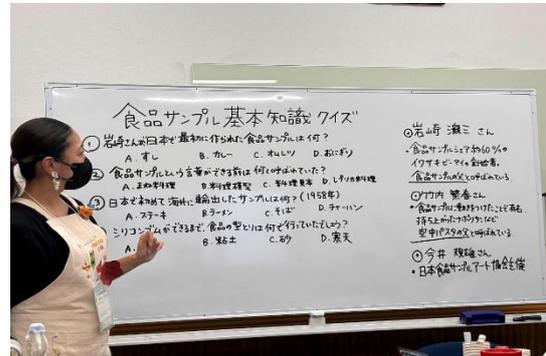
会場：富士研修所 小研修室4

講師：姫嶋 真基子 氏

担当：小林 晴子、石崎 侑希

参加人数：6名

参加実費：1,500円（食品サンプル材料代）



ねらい

姫嶋氏は幼少期よりの趣味であったドールハウスのミニチュア、フェイクスイーツ制作を経て、2018年から食品サンプル作りを開始。外国人にも大人気の食品サンプルワークショップを毎週末、山梨県内を拠点に近隣の県外にも出向き、各地で開催している。世界中の人に瞬時に理解してもらえるアートである食品サンプルは、日本人の職人気質の繊細さ、一つ一つを丁寧に作ろうとする勤勉さ、細かなところまで観察し表現しようとする真面目さがあらわれたアートである。分科会では、ワークショップを数多く開催している姫嶋氏から地域貢献・地域活性化に向けての実例や外国人に日本の魅力を伝える秘訣とその方法について学びつつ、姫嶋氏と参加者との間で、食品サンプルを作りながら外国人に伝えたい日本の良さについて語り合う。また、SNS等を使用した日本の良さの世界への効果的な発信方法についても議論する。

◆姫嶋 真基子 氏プロフィール：

山梨県市川三郷町出身。日本食品サンプルアート協会認定インストラクター。地域の有志と協力して開催する地域活性化を目的としたマルシェや、小学校教員に向けての「教職員元気回復」事業への出前講座、企業イベント、ラジオ出演などを通して、子どもから大人まで楽しめる活動を行っている。写真が趣味で、作品の撮影も全て作者自身が行う（ボーイスカウト全国写真コンテスト4年連続入賞）。

実施内容

1 講師の自己紹介（5分間）

- ・ 氏名、経歴について自己紹介。
- ・ 実際のサンプルを見せていただきながら、ワークショップの活動や様々な発信活動について共有。

2 講師による講義（15分間）

- ・食品サンプルの歴史についての説明。
- ・クイズ形式で食品サンプルの歴史について説明。
- ・実際の食品サンプルと本物の食品と見比べてどれが本物の食品か当てるゲームを行い、食品サンプルの魅力に触れた。
- ・質疑応答では食品サンプルはいつから始まったのかという質問があり、それに対し1932年頃からの回答。

3 参加者による食品サンプル製作体験（85分間）

- ・講師の手本を元にかつ丼を作作成。
- ・体験後に参加者同士で感想を共有。

振り返り

参加者の声：

- ・すごく楽しかった。
- ・芸術の秋にすごく合った分科会であり、食品サンプルづくりにハマってしまった。
- ・ホームセンターや100円均一で揃えて食品サンプルが作れるとは驚きだった。
- ・講義を受け世界でのニーズがあるのではないかと感じると共に、日本から始まった食品サンプルをもっと世界中に発信することが必要だと感じた。

良かった点：

- ・少人数だったので、講師の先生に丁寧に指導いただけた。
- ・同じ材料で作っても作る人によって個性が出て異なる雰囲気の商品になることを興味深く感じ鑑賞することができた。

改善点：

- ・大変良い分科会だったので、多くの人に集ってもらえると良かった。
- ・分科会の題名を変えればもっと人が集まったのではないか。



(分科会 6) Passion for MT.FUJI

「御師の家、富士講ツアー ～富士山信仰の足跡をたどる～」

概要

日時：11月9日(土)15:15～17:05
会場：北口本宮富士浅間神社、御師の家「菊谷坊」
講師：松川 裕子 氏
担当：松川 裕子、片山 奈桜子
参加人数：20名
参加実費：500円（菊谷坊 入場料）



ねらい

松川氏は、インバウンド観光を中心に、日本、山梨県の魅力を世界に発信する通訳案内士として、富士吉田地域を拠点に活躍している。分科会では、室町時代から江戸時代にかけて隆盛を極めた富士への信仰登山の入り口である北口本宮富士浅間神社（世界遺産構成資産）を参拝する。信仰登山グループである富士講の世話をした御師の家「菊谷坊」を訪ね、「菊谷坊」18代目ご当主であり、大学で社会課題・地域課題の解決を専攻した秋山氏から、富士吉田が抱える空き家問題の解決のために、移住やワーケーションを呼び込むことを狙いとして、富士吉田をまるごとサテライトオフィスとする取組等について話を伺う。歴史を感じる街並みを歩きながら、国際的な人気も高い現代のスポーツ・観光登山の対象としての富士山の文化的・歴史的背景について、興味深い知見を得ることを目的とする。

◆松川 裕子 氏プロフィール：

山梨県甲府市出身。山梨県青年国際交流機構（IYEO）会員。全国通訳案内士。2009年に県内通訳案内士仲間と「富士の国やまなし通訳案内士会」を立ち上げ、2017年1月には任意団体から一般社団法人となる。研修担当として会員のスキルアップのため研修企画を行う。

実施内容

1 受付のち出発

- ・富士研修所玄関にて受付を行い、徒歩で北口本宮富士浅間神社に向かった。

2 北口本宮富士浅間神社ツアー（14:24～14:59 約35分）

- ・大鳥居と禊場を見学。大鳥居手前の川が登山前の禊の場となっていることや信仰として富士登山をする際に白装束を左前で着ることなどの説明あり。
- ・国指定重要文化財の神楽殿と手水舎を見学。
- ・太郎杉と夫婦桜を見学した。いずれも天然記念物（県、市）に指定されている巨木であった。写真に収めるのに良いスポットの紹介。
- ・拝殿と第三代本殿（現在の本殿）、第一代本殿（東宮）、第二代本殿（西宮）を見学。時間の都合上個々での参拝はできなかったものの、遷宮前の本殿を含めすべての本殿を巡ることができた。
- ・古くより富士登山の起点となっていた登山門の前に立ち、ここから出発したであろう多くの先人たちに思いを馳せた。
- ・杉並木の参道を歩いて神社を後にした。樹齢が高いうっそうとした杉並木と富士山を信仰する人々により寄進された灯籠が並んでいた。

3 徒歩移動

4 御師の家「菊谷坊」訪問（16:10～16:45 約35分）

- ・18代目当主の秋山真一氏から信仰登山グループである富士講や、その世話をした御師の家についての説明を受けた。歴史や現在の状況について伺った。
- ・2つのグループに分かれて交互に祭壇の部屋の見学と質疑応答をした。祭壇の部屋では秋山氏のご令弟が案内をした。

5 マイクロバスにて富士研修所に帰着

- ・ファミリーマート富士吉田金鳥居店まで徒歩で移動したのち、富士研修所の職員が運転するマイクロバスで富士研修所に帰着。



振り返り

参加者の声：

- ・コースも講師もガイドもとても良かった。夕暮れの富士山のシルエットも見られた。歩き疲れた頃ちょうどバスがお迎えに来てくれてとても嬉しかった。細やかな心遣いが行き届いていた。富士講についてよく知らなかったので興味を持った。
- ・御師という存在を知らなかったので今でも御師として活動されている方の存在にビックリした。富士山信仰についてもっと知りたくなりました！ガイドさんも明るい雰囲気でも良かった。

良かった点：

- ・富士山麓という大会会場のロケーションを存分に生かした山梨県ならではの、富士吉田ならではのツアーを実施できた。紅葉の時期でかつ天候に恵まれ美しい富士山と景色を見ることができた。
- ・講師は明るく楽しい雰囲気、説明がわかりやすかった。
- ・北口本宮富士浅間神社内を巡りながら講師の説明を聞くことで個人旅行では体験できない歴史や文化を知ることができた。
- ・地元の人にもあまりよく知られていない御師や富士講について現存する御師の方から話を伺い、富士山信仰の歴史を深く学ぶことができた。
- ・0歳児からシニアまで幅広い年代の参加者がいたが無理なく街歩きを楽しめた。

改善点：

- ・本分科会は唯一研修所外で実施するものであったところ、事前配布資料や当日の案内で出発前の集合場所のお知らせがうまくできなかった。実費の集金が必要な分科会だったため玄関先ではなく机のある受付にて受付し集合する流れの方がスムーズにできたと思う。
- ・ツアーの見どころが多くじっくり参拝したり写真を撮ったりするには時間が足りなかった。



(分科会7) Passion for HUMAN RELATIONSHIP

「ソーシャルハウス 宝島 ～富士吉田から始まる人との繋がり～」

概要

日時：11月9日(土)15:15～17:05

会場：富士研修所 芙蓉

講師：上田 潤 氏

担当：小池 茉那、滝川 望、熊倉 百合子

参加人数：14名



ねらい

上田氏は「人のつながりで社会をゆるめる」というテーマでコミュニティデザインに取り組む。空き家だった一軒家を地域に開放し、コミュニティ拠点「ソーシャルハウス 宝島」を運営。高齢者サロンやフリースクール、子育て支援や若者の自立支援等、多様な活動を行い、年間4,000人以上が集う。分科会では、上田氏の若者目線からの地域の居場所づくり、世代を超えた人とのつながりの実例から、地域おこし・地域創生・地域社会のネットワーク作りについて語り合う。

◆上田 潤 氏プロフィール：

山梨県南アルプス市出身。一般社団法人ヒトナリ代表理事、富士吉田市地域おこし協力隊。

実施内容

1 講義

・「ともに生きていく、人生の使命を見つける」について

上田氏は、コロナ禍を経て、人のつながりの重要性を改めて認識し、人々の暮らしや社会課題に関わる活動をしていきたいと考えるようになり「人はもっと一緒に幸せに向かうことができる」という信念のもと、さまざまな生きづらさを抱えながら必死に生きる人々のために尽力したいという想いがあるとのこと。

現代社会では、自分や家族だけでは解決できない問題が多く存在するが、人はもっと他者に頼り、社会のラベルや垣根を超えてともに過ごすことができるはずだと上田氏は考えている。自己責任論で片付けるのは寂しく悲しいことであり、人とのつながりによって生きづらさを緩和することが可能だと確信していることが今の活動へつながっているというお話があった。

・「人が隣り合う景色をつくる」について

上田氏は、多様な人々の居場所をつくることで、社会課題に作用したいと考えており、その中でも特に注目している課題が、不登校の問題と高齢化の問題であるとのこと。

① 不登校の問題

日本には、30万人以上の不登校の児童生徒、6万人以上の不登校の高校生、90万人以上の不登校予備軍が存在しているが、全国にあるフリースクールは約500箇所であり、受け皿が圧倒的に不足しているとのこと。その結果、39万人以上の子どもたちが居場所を失っているのが現状であり、このような現状に対して選択肢のある居場所づくりが求められているとの話であった。

② 高齢化の問題

世界一の高齢化社会である日本では、3人に1人が高齢者であり、社会保障費の増加や7人に1人が要介護であるという現実がある。人生100年時代を迎える中、元気な高齢者がどれだけ健康寿命を維持できるかが、持続可能なまちづくりの鍵となる。高齢者が住民活動や社会活動に参加することで生きがいを見つけることが介護予防にもつながると考えているとの話であった。

・「社会課題への具体的な取り組み」について

これらの課題を解決するために、上田氏は「人のつながり」を軸にした取り組みを展開している。多世代交流拠点を開設し、空き家を活用したフリースクール事業や高齢者の居場所づくりなどさまざまな事業を実施しており、まち全体で社会課題に取り組む仕組みをつくり、ともに生きていく文化を醸成することを目指しているというお話であった。

これらの活動を通じて、「人が隣り合う景色」を生み出し、社会の中で誰もが居場所を持ち、ともに歩む未来を描いている。

2 質疑応答

まず、運営体制についての質問があった。上田氏は基本的に1人で活動を行い、サポートとして75歳以上の女性10名が協力しているほか、フリースクールではボランティア3名が関わっていることを説明。

次に、医療系の専門家やコミュニティーナースの関与について問われ、現在そのような専門家はおらず、上田さん自身の活動は「人々をつなぐきっかけづくり」に重点を置いているとのこと。ただし、必要性が出てきた場合には対応する姿勢を示した。

ソーシャルハウス宝島に年間5,000人を集客した要因については、取材依頼を積極的に行い、市役所の記者クラブやSNSを活用した結果だと説明された。地元のメディアや口コミ、SNSを通じて地域の人々との接点を増やしている。

地域おこしの業務内容に関する質問では、上田氏がフリーミッション型の地域おこし協力隊であり、個人事業主として雇用契約は結んでいないことが語られた。活動資金は国から提

供されるもので、自治体には負担がないとのこと。

また、資金調達について問われると、地域おこし協力隊の事業費と自身の給与を活用していると回答があった。財政面で厳しい状況に陥ることもあるが、「なんとかなる」と楽観的に考えることで乗り越えていると語られた。

不登校経験者や就職が難しい若者への取組みについての質問に対しては、スモールビジネスの立ち上げを伴走する方法を考えていると述べられた。また、「社会起業家を育てたい」との強い意志があり、若者に対しては「20代で世の中を諦めるのは勿体ない。挑戦を楽しんでほしい」という思いを語った。

活動対象に高齢者と子ども以外の年齢層も含まれるのかという質問には、対象を限定しておらず、誰もが利用できる場所を用意していると回答。繋がり価値を重視していることを強調した。

立ち上げ前の他の団体の視察に関しては、長野県「みんなのいえタブの木」や栃木県「えんがお」などを訪問した経験があるとのこと。ただし、他の事例をそのまま活用するのは難しいため、多くの視察は不要という見解を述べ、理由として、それぞれの地域特有の背景に合わせたオンリーワンの事業が必要だと語られた。

啓蒙活動については、書籍やポッドキャストを活用し、多様な価値観を広める活動を行っているという説明された。また、ポッドキャストアワードへの挑戦や講演活動も今後視野に入れている。

活動の方向性については、年代性別国籍問わず、ごちゃ混ぜの手法が意図的なものかという質問に対し、課題やニーズに応じて自然発生的であり、意図していないと回答。人々の繋がりや居場所づくりが誰かの幸せにつながるのであれば、柔軟に対応する姿勢があると語られた。

最後に、業務全体のバランスや休息についての質問に対して、上田氏は「目の前の業務に追われ、パンク状態になることがある」と率直に答えた。一方で、夢を大きく描く時間を定期的に設け、ホワイトボードにビジョンを描いて逆算しながら行動を整理し、現在地を確認していると話された。

来年度から無給で活動を続けることを決意し、「無給だからこそ無敵」と語る上田氏。その言葉からは並々ならぬ覚悟が感じられ、参加者たちの心に火をつけた。

振り返り

参加者の声：

- ・ 世代を超えた人のつながりの可能性に気づかされた。地域に貢献する活動のアイデアに刺激を受けた。
- ・ 分科会では、地域おこし協力隊として活動する魅力的な講師の取組みを通じて、多くの共感を覚えた。
- ・ 場だけを作っている、とはっきりと言う、等身大の活動にも、好感を持ち、場づくりへの

真摯な姿勢には特に心を打たれた。その等身大の活動と大きな野望が印象的で、今回の全国大会テーマにもぴったりの内容だった。

- ・分科会の企画は非常に深く、講演内容も興味深いものだった。若い世代が情熱を持って小さな積み重ねを続けている姿に感銘を受け、私も地元のために何かできることを考える良い機会になった。

良かった点：

- ・上田氏の具体的な活動事例が参考になり、自分たちの地域課題への応用がイメージしやすかった。小規模な分科会ならではの密な質疑応答が行えた。

改善点：

- ・上田氏の活動を映像で紹介する時間もあれば、活動のイメージがさらに明確になった。

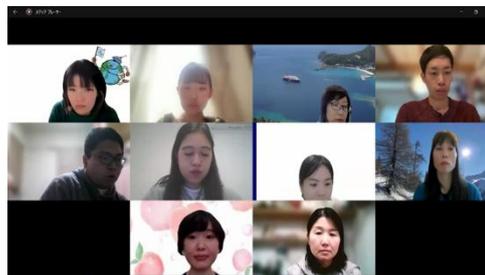


(分科会8) Passion for INTERNATIONAL EXCHANGE

「日本にいなから、国際交流の魅力を再発見しよう！」(オンライン開催)

概要

日時：11月9日(土)15:15～17:05
会場：富士研修所 小研修室3
担当：東京都青年国際交流機構(東京都IYEO)
参加人数：16名
実施方法：オンライン



実施内容：東京都IYEOの役員で事前に決めた以下の内容に沿って実施した。

- 1 外国の人に紹介したい地元自慢(アイスブレイク)
- 2 これまでの国際交流や外国人とかかわった経験の共有
- 3 坂本達さんから国際交流にまつわるスペシャル・エピソードトーク
- 4 インバウンド、地域、IYEO、海外での国際交流について、小グループでの意見交換
- 5 明日から国際交流でチャレンジしてみようと思うことを紙に書いてシェア

振り返り

内閣府青年国際交流事業のOBであり、会社員をしながら自転車で世界一周をし、ご家族で6大陸制覇を果たしたばかりの坂本達さんが分科会に参加されることが直前に分かった。無理を承知で、お話をしていただけるようにご相談し、自転車で世界一周をするに至った経緯、各国での実体験を写真や楽しいエピソードを交えてご紹介いただいた。また、自転車を通じた交流は海外だけではなく、現在も和歌山でWarmshowersを通じて続けていらっしゃるなど様々なお話をお伺いし、国際交流の魅力を再確認した。

当日は急な人数変更を余儀なくされ、スタッフも参加者も臨機応変な対応を迫られたが、無事に分科会を終えることができた。このように状況を判断し柔軟に対応ができるのも、国際交流に必要な力だと感じると共に、一緒に分科会を作り上げてくださった方々に心より感謝したい。

(ご参考)坂本 達さん オフィシャル・サイト：<https://www.tatsuoffice.com/>

参加者の声：

- ・期せずして、坂本さんのいい話が聞けてよかった。
- ・様々な形で、日本や海外で国際交流を続けている人がいて、励みになった。
- ・身近なことから国際交流を継続してみようと思う。

良かった点：

- ・日本各地そして海外からの参加者と共に、国際交流の経験を共有することで新たな発見もあり、明日からちょっと心掛けてやってみようと思えることを見つけるお手伝いができたのであればよかった。

改善点：

- ・国内外の国際交流で豊富な経験を持つ人が多く、時間配分に余裕をもって、もう少し長めにお互いの話を聞けるようにすればよかった。



第1部 会場一覧表

日時	会場	詳細	開催時間	会場名
11/9(土)	全国大会会場	開会式・基調講演 分科会出発会場・閉会式	13:00-17:25	富士研修所 大研修室
	分科会(1)	「山梨ワイン講座～『甲州』他ワインで語る 日本の味わい～」	15:15-17:05	富士研修所 中研修室4
	分科会(2)	「天空の集落『ちかはぎ』でアメイジングな 宿泊を！」	15:15-17:05	富士研修所 中研修室1
	分科会(3)	「やってみるじゃん甲州かるた～かるたを 通して、人を、郷土を、世界を元気に！～」	15:15-17:05	富士研修所 中研修室2
	分科会(4)	「山梨県内での国際交流活動“A Map for You”？多様な価値観があれば多様なニ ーズが生まれる？」	15:15-17:05	富士研修所 中研修室3
	分科会(5)	「食品サンプル講座～日本のよさを地域か ら発信～」	15:15-17:05	富士研修所 小研修室4
	分科会(6)	「御師の家、富士講ツアー ～富士山信仰の 足跡をたどる～」	15:15-17:05	御師の家「菊谷坊」
	分科会(7)	「ソーシャルハウス 宝島 ～富士吉田から始まる人との繋がり～」	15:15-17:05	富士研修所 芙蓉
	分科会(8)	「日本にいながら、国際交流の魅力を 再発見しよう！」	15:15-17:05	富士研修所 小研修室3

第2部 事業参加報告会・活動報告

【事業参加報告1】

報告者：平新 丞

参加事業：2022年度「世界青年の船」事業

所属：山梨大学看護学部3年

出身地：北海道 函館市

参加動機：看護の対象を世界にひろげるため！

参加後ひとこと：自分に自信がもてたと共にもっと
がんばらなきゃなと思った！



報告内容：

- ・2022年度「世界青年の船」事業の概要
- ・その事業による影響としてTOEICの点数の変化
- ・留学生とバスケサークルの設立
- ・カンボジア短期留学
- ・災害看護師やSWYのシップナースなどこれからの目標として

【事業参加報告2】

報告者：田中 愛子

参加事業：2023年度「世界青年の船」事業

所属：山梨県立大学国際政策学部4年

出身地：山梨県 笛吹市

参加動機：元swyerである叔母の勧めがきっかけ！

参加後ひとこと：みんなの意見や考え方が違っていい。
違うから面白いと思わせてくれた！



報告内容：

- ・乗船のきっかけなど簡単に自己紹介
- ・「世界青年の船」事業を通して、多様なバックグラウンドを持った仲間たちと一緒に
なってプロジェクトを進めていくことの意義や大変さ
- ・それぞれの個性や違いを認め合うことの大切さ

【山梨県青年国際交流機構活動報告】

内容：内閣府青年国際交流事業
地方プログラム、
自主事業などの活動報告
報告者：山梨県青年国際交流機構
会長 村松 智子



山梨県IYEO活動報告

- ・山梨県を離れてしまっても心は山梨IYEOにあり、年会費を納め、活動に参画して下さるメンバーがたくさんいる。
- ・少数精鋭、チームワークで自主事業、ブロックイベント、全国大会などを作り上げてきた。
- ・内閣府青年国際交流事業受入が地方のIYEOにとってはとても大切。地域における国際交流・国際理解の機会を提供してくれている。
- ・ホームステイプログラムの満足度は数値で表せないほど。
- ・これからも地域におけるきっかけを提供していきたい。

【懇親意見交換会】

会場：富士研修所 廊下

乾杯挨拶：一般財団法人青少年国際交流推進センター 理事長 駒形 健一

第2部 地域理解研修オプショナルツアー

1 「富士山ツアー」

実施内容

日時：11月10日(日)

8：20 富士研修所発（シャトルバス）

8：47 富士山駅～ 8：52 河口湖駅（電車）

8：52 河口湖駅着（荷物をコインロッカーへ）

9：15 河口湖駅発（MT.FUJI 1DAY PASS 利用。

河口湖周遊バスにて大石公園まで約40分）

9：50 大石公園、自然生活館、ハナテラスなど散策

11：12 大石公園発（河口湖周遊バス）

11：55 河口湖駅着 自由解散

☆ 河口湖湖畔にて紅葉祭り開催中。おすすめ観光スポットやグルメなど紹介し、途中下車した方、追加観光をされた方が多かった。

担当：関 和美、田中 愛子、平新 丞、中澤 綾

参加人数：15名



ねらい

山梨の観光地である富士五湖の一つ、河口湖周遊観光をすることで山梨の魅力をさらに発信する。

振り返り

参加者の声：

- ・河口湖駅でお土産を買ってから無事に電車に乗った。ブルーベリー、青バラソフトも美味しかったし、大石公園内を歩くのも楽しかった。
- ・山梨県IYEOの皆さん、ご案内ありがとうございました。
- ・久保田一竹美術館はとてすばらしかった。
- ・山梨県IYEOの皆さん、食べ歩きを一緒にしてくださった皆さん、ありがとうございました。とっても楽しかった。また山梨県に行きたい。
- ・お疲れ様でした!ゆっくりお風呂に浸かり(1)富士山 (2)ヒト (3) 珍道中を大切に、ポケットにしまって下さい。
- ・みなさん、ありがとうございました。たくさんの出会いに感謝。山梨の方々の温かさに触れた旅だった。河口湖駅等ではあんなにたくさんの観光客の方がいたが、駅員さん、バスの運

転手さんなど地元のみなさん笑顔で接していて、効率よく、さばいておられるのに感心した。駅でもたいへんスムーズにチケットが買えた。あの後、富士山世界遺産センターを見学し新宿に向かいました。

- ・いろいろアドバイスありがとうございました。紅葉まつり、久保田一竹美術館はとてもすてきだった。帰ってからもみんなに勧めたいと思う。割引券も使わせてもらった！

よかった点：

- ・参加者が喜んでくれたことが何より良かった。
- ・朝方雨が降っていたが、周遊バスを降りる頃には雨も上がり、参加者の希望や時間に合わせたご案内ができたと思う。
- ・バスの待ち時間に即席で「富士山ツアー」のLINEグループを作ったのだが、自由散策となっても、問い合わせに対応したり、写真や感想を共有できたりした。



2 ソーシャルハウス「宝島」ツアー

実施内容

- 日時：11月10日(日)
9:30 富士研修所出発（シャトルバス）
9:40 宝島着
9:40～10:10 講義
10:10～10:50 質疑応答
10:50～11:15 CATV富士五湖で放送された宝島の特集番組を視聴
11:15 宝島発（シャトルバス）
11:30 富士山駅解散



会場：ソーシャルハウス宝島（山梨県富士吉田市竜ヶ丘3丁目2-3）

講師：上田 潤 氏

担当：小池 茉那、片山 奈桜子、志村 卓史、石崎 侑希

参加人数：15名

ねらい

上田氏は「人のつながりで社会をゆるめる」というテーマでコミュニティデザインに取り組む。空き家だった一軒家を地域に開放し、コミュニティ拠点「ソーシャルハウス宝島」を運営。高齢者サロンやフリースクール、子育て支援や若者の自立支援等、多様な活動を行っており、年間4,000人以上が集う。分科会では、上田氏の若者目線からの地域の居場所づくり、世代を超えた人とのつながりの実例から、地域おこし・地域創生・地域社会のネットワーク作りについて語り合う。

◆上田 潤 氏プロフィール：

山梨県南アルプス市出身。一般社団法人ヒトナリ代表理事、富士吉田市地域おこし協力隊。

講義内容概要

○ソーシャルハウス宝島を始めた経緯について

会社員として働くなかで体調を崩して休職を経験、病気を経て今後の人生をどう生きていくかについて考える機会があり、人のためになりたいと決意した。

資本主義の世界からgame changeし、資本主義では解決できないことを人とのつながりの方で解決していく取り組みをしたくソーシャルハウス宝島を始めた。

○ソーシャルハウス宝島が手がけている事業について

高齢者にとっても若者にとっても孤独が社会問題の根底にある。「ひとが隣り合う景色を作る」をビジョンとして掲げ、暮らしを混ぜる交差点になりたい。

【子ども向け事業】

不登校の児童や生徒が増え続けているのに対して受け皿が足りていない現状がある。居場所がなく困っている不登校の児童・生徒やその保護者のために小中高校生向けのフリースクールを開校している。

【高齢者向け事業】

元気な高齢者の居場所や生きがいをづくり、介護予防を目的として、地域の高齢女性たちと飲食事業を手がけている。居酒屋向けにお通しとしての惣菜の製造を請け負っている。

【若者向け事業】

ニートや引きこもりの若者の自立支援として人とかかわるリハビリの場を提供している。18歳以上の若者に対する公的な支援が足りていないことに問題意識を抱えている。閉じこもった世界から誰かと出会うことで変われるきっかけがあるので、きっかけ作りによってニートや引きこもり状態にある若者のスイッチを押すことができている。



振り返り

参加者の声：

- ・フリースクールの子供たちやおばあちゃんたちのお料理の活動のビデオを見せていただき興味深かったです。
- ・「実家のばあちゃんち」的雰囲気は誰でも一番安心できる空間なんだと思いました。
- ・今後自分には何ができるのか等考える良いきっかけになった。
- ・地域で活動する人の話を聞くというのは社会科見学らしさがあった。事後活動ならではの機会と面白さだと思った。

よかった点：

- ・参加者にとって学びや気づきを得られる講義であった。

- ・地域の居場所づくりを行うことで人々が地域で一緒に生きていく文化をつくることについて伺い、共生社会の在り方について考えさせられた。
- ・ざっくばらんな雰囲気ですべての質問に答えることができた。

改善点：

- ・参加者に早めに資料が配れたらよかった。
- ・自家用車で移動する参加者がいることを想定して準備できたらよかった。シャトルバスの運行経路を駅までだけでなく研修所に戻るパターンも考慮すべきであった。

参加者アンケート結果

1. 本大会の参加者数及びアンケート回答数について

事前登録者数：200名

当日参加者数：180名（うち対面153名、オンライン27名）（うち関係者36名）

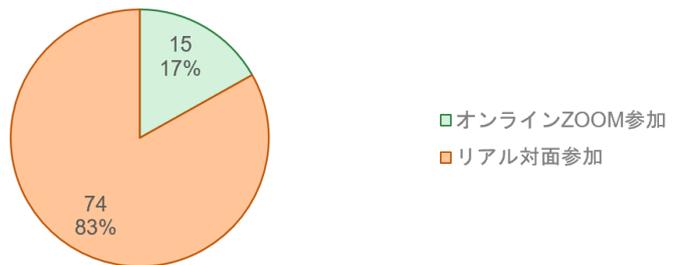
参加者に対しアンケートを実施し、89名から回答を得た。（回答率49.4%）

実施方法は記名式で、Googleフォームを用いて回答及び集計を行った。

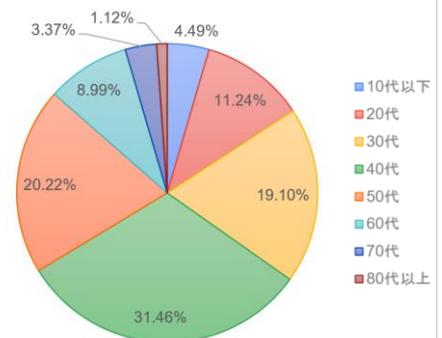
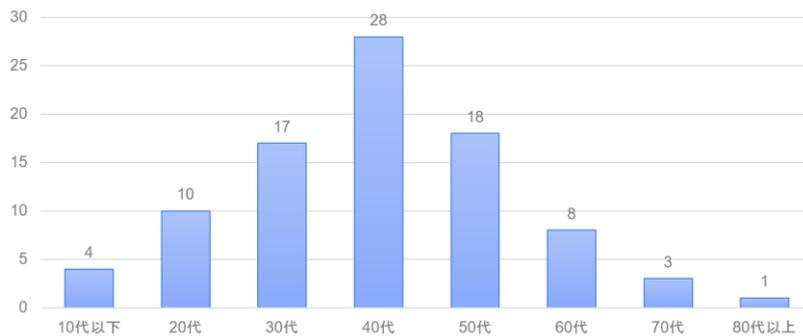
2. アンケート結果

①参加形態

アンケートに回答した89名のうちオンラインZoom参加15名、リアル対面参加74名となり、8割以上はリアル対面参加となった。



②参加者の年代別分布



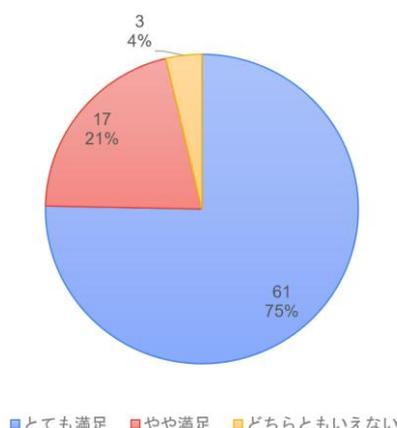
参加者を年代別にみると、40代が最も多く、次いで50代、30代の順になった。

<第1部>

③基調講演の満足度

設問：「基調講演の満足度を5段階（とても満足、やや満足、どちらともいえない、やや不満、とても不満）で評価してください。」

基調講演に参加した81名のうち、96%にあたる78名が「とても満足」「やや満足」と回答した。



■とても満足 ■やや満足 ■どちらともいえない

④基調講演に対する意見・感想（抜粋）

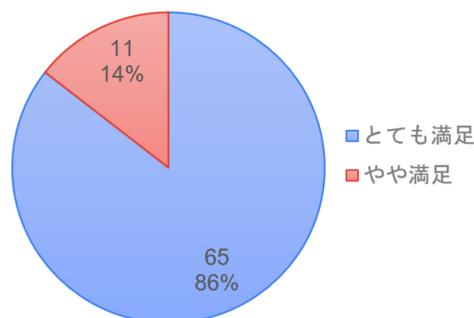
- ・人生を変える出会いから世界中で様々な活動をしてこられた新津氏の生き方に強い意志を感じた。
- ・熱量と説得力のある語り、委ねる部分をすっきり委ねる思い切りのよさで、楽しく真摯に参加できた。
- ・世界に目を向けて活動すること、自分の使命をまずは見つけることから始めることなど色々なことを学ばせていただいた。恐れずに行動することによって、夢や希望が生まれたり、命が助かることを改めて感じさせていただいた貴重な機会になった。
- ・“こまいやなだろっかち” 使命をみつける。素敵なお言葉ですね。ジェンダーギャップ指数の実情も知り、とても驚きました。
- ・子育てが段々ラクになってきて、自分を見つめ直している最中でしたので、新津氏の講演を聞いてとても背中を押された気分になりました。まだまだ模索中ですが地域や社会に何か還元できたらと行動してみたいと思う！
- ・ジャスミンというお名前にピッタリの華やかでパワー溢れるキラキラの方でした。存在そのものが周りの方に元気を与えてくれる方だった。
- ・IYEOのOBで活躍している人の話が聞きたい。
- ・自分はどのような使命を持って生まれてきたのか。生涯を通して成し遂げたことがある人はすてきだなと改めて感じた。子供にもそのような自信のある生き方をしてほしいと思った。
- ・自分と対話する時間をありがとうございました。ご縁、出会いを大切に。やりたいことは口に出す。まだまだ知らないこともたくさん！視野がせまくなっていた私にはサイコーな時間となりました。ボーっとしている場合じゃないぞ！
- ・講師の新津氏のお話と、大会テーマの使命がリンクしていて考えさせられる良い内容だった。

- ・とても良い講演でした。周りを笑顔にしようと思うなら自分も笑顔で。今の仕事がまさに、対人援助の仕事なので、自分が健康で笑顔でないと相手を笑顔にできないと改めて気付かされた。
- ・新津氏は弱者を守るために長年活動されていて立派な方だと思う。講演は、若い世代の子ども達に聞いてもらいたいすばらしい内容だった。
- ・講演者のチャレンジ精神、お話にパワーをいただいた。ワークをはさみながらの講演で、あっという間の時間だった。自分自身を見つめ直すよい時間だった。
- ・callingをテーマに、自分の生きる使命などを考えさせられる講演だった。同じ女性として、ロールモデルになるような内容で、刺激を受けた。自分のルーツや運命を大切に、行動し続ける姿に勇気をもらいました。また、将来のイメージなど、具体的に言葉にすることも大切だと改めて感じた。

⑤分科会の満足度

設問：「分科会の満足度を5段階（とても満足、やや満足、どちらともいえない、やや不満、とても不満）で評価してください。」

分科会に参加した76名の全員が「とても満足」または「やや満足」と回答した。



⑥分科会に対する意見・感想（抜粋）

<全般>

- ・オンラインでも参加できるようにしてほしかった。
- ・講師からの学びはもちろん、参加者同士の学びも大きかった。
- ・山梨ならではの分科会で、1つだけでなく、複数参加したかった。
- ・個性ある各講師によって展開された各分科会は多様な興味対象をもつ参加者の期待に充分応えたと信じる。

<分科会1：Passion for WINE>

- ・ワインについて、いろいろなことがわかり、勉強になった。
- ・いろんな種類の山梨県ワインについて説明を聞きながら味わえたことが、またとない機会になった。今後和食xワインの場合は、ご紹介いただいた山梨県の甲州ワインにしようと思った。
- ・原料や製法による味の違いなど、詳しく説明していただき、大変分かりやすく、勉強になった。何より、山梨ワイン、とても美味しかった！来てよかった！

<分科会2：Passion for HOSPITALITY>

- ・鈴木氏の考えるツーリズムの根底に何があるのか、その半生などを知れてよかった。

<分科会3 : Passion for JAPANESE TRADITION>

- ・講師の河西氏のお話が興味深く、また進行もスムーズで会の雰囲気がとても良かった。
- ・世界のかるたに初めてふれて、楽しく学べるツールとしてもっと普及させてほしいと思った。
- ・カルタは自分の興味がなかったことも書いてあるので、今まで気づかなかったことや私の知らなかった山梨を知ることができた。山梨全体のことを知る良い機会になった。
- ・甲州カルタがまずはとても楽しかったし、勉強になった。世界のカルタも含め、プレイヤーが互いにカルタで知らない世界を楽しみながら学べることを実感できたことが大きい。
- ・自分でカルタを作成する活動も学びが多かった。正確な情報を入れたいし、読みやすく、驚きもあってワクワク考える時間を満喫できた。

<分科会4 : Passion to "Act locally and think globally">

- ・三森なぎさ氏がこれまで経験してきた身近な国際交流での問題点などをお題にしてグループごとに話し合い、アイデアを出し合う中で解決策や新しい発想の展開が生まれ、和気藹々ととても楽しく学ぶことができた。
- ・笑顔がステキでとても親しみやすい三森なぎさ氏のお陰で、参加者の皆さんがリラックスしていた様子が印象的だった。
- ・現実に起きていて、三森氏も解決できていない身の回りの課題についてグループごとに話し合った。一筋縄では解決できないようなテーマが多かった。はじめのうちは、いいアイデアも意見もせず、苦戦していましたが、何かのきっかけで視点を変えて課題を見ることで少しだけ解決に向かっていくようなアイデアが出だした感じがした。
- ・社会で暮らしている以上、自分たちだけが良いというわけにもいかず、様々な立場の人がいることを忘れずに今よりも少しでも良い社会にするためには自分には何ができるのかを考える良いきっかけになった。

<分科会5 : Passion for REPLICA FOODS>

- ・楽しんで参加させていただいた。ありがとうございました。作品はお土産にもなり、家族にもウケています！
- ・丁寧な説明に加えみんなでクラフトできたのが楽しかった。体験型はやはりいいと思った。
- ・食品サンプル作り、とても楽しかった。ホームセンターで買えるもので作れるので、国際交流の材料になるなと感じた！

<分科会6 : Passion for MT. FUJI>

- ・ただの観光ではなくて背景を聞きながらの見学はとても有意義だった。
- ・富士山信仰に対する精神性を学ぶことができました。しかし、富士講がほとんどいなくなってしまうとこの文化がなくなってしまうのはとてももったいないと感じたので、次回は泊まりに行きたいと感じた。
- ・すてきなお話で、ぜひとも宿泊してみたいと思った。きちんと伝えようとして文章を読まれていた時よりもご自身の言葉でお話をされている時は魅力が増した。

<分科会7 : Passion for HUMAN RELATIONSHIP>

- ・青森に溜まり場を作りたい者として、見習うべき勢いと、効果的な問い/疑いを既製システムに向ける大切さ、持っている資源を見直す(あることいる人結構揃っている) 視点を得られた。
- ・小さな歩みから地道に様々な支援の活動を続けて頑張っている方々を知ることができて大変勉強になった。宝島として活動している上田氏の取組みは、同じ町に住む者として大いに刺激を受け参考になった。他者をありのままに受け入れることから理解と共感が育っていくことは、他県の発表からも感じたことだった。
- ・限られた時間でしたが、もう少し相互の意見交流が図られたらなお良かったと感じた。

<分科会8 : Passion for INTERNATIONAL EXCHANGE>

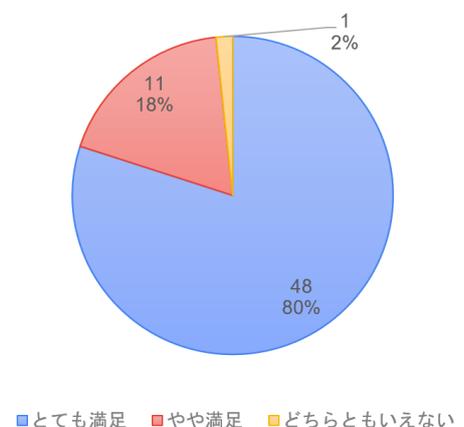
- ・参加者皆さんの体験などを聞いて、私もチャレンジを続けていこうという気持ちになった。坂本達氏のお話が聞けたのは本当にラッキーだった。
- ・坂本達氏のお話がとても楽しくて、もっとお聞きしたかった。

<第2部>

⑦帰国報告会・山梨県IYEO活動報告の満足度

設問：「帰国報告会・山梨県IYEO活動報告の満足度を5段階（とても満足、やや満足、どちらともいえない、やや不満、とても不満）で評価してください。」

帰国報告会・山梨県IYEO活動報告に参加した60名のうち98%にあたる59名が「とても満足」または「やや満足」と回答した。



⑧帰国報告会・山梨県IYEO活動報告に対する意見・感想（抜粋）

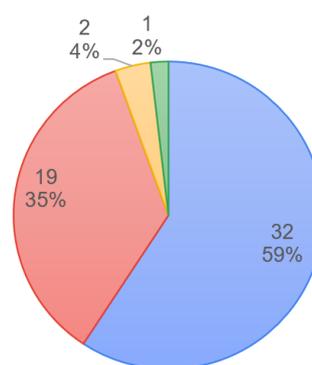
- ・情熱や誠実さが伝わりました。
- ・事業参加報告会、特に平新氏の発表がすごくよかった！TOEICの点数やこれからの自分の目標を大勢の前で堂々と発表しているところがすてきだった。事業参加報告は「船で何をやったか」にフォーカスしがちで事業内容は既に理解しているため飽きることが多かったが、今回は自分の変化や今後を具体的に話してくださったので刺激をいただいた。
- ・山梨県IYEO活動報告は、少数精鋭ながら、それぞれができる範囲でやる(持続可能性の維持)ということに深く共感した！その中で今回も全国大会の運営や受入れなど大きなイベントもされていてすごいなと思った。会長さんの「それぞれができる範囲で」というあたたかい雰囲気でもメンバーの方も安心して活動できるのかなと思った。
- ・事業参加報告では、ただの報告ではなく、その後の活動をレポートいただきよかった。山梨県IYEOの活動報告も説明がわかりやすく、内容も素晴らしかった。
- ・事業前、事業後の行動変化がよくわかる報告会だった。もっと写真も交えて長く聞きたかった！
- ・事業参加報告会では、発表していたお二人を応援したい気持ちになった。山梨県IYEO活動報告では、ホームステイの満足度の高さが印象的だった。
- ・OBとしてとても心に響いた。当時の自分が感じたことを思い出させてくれる内容だった。
- ・若いエネルギーを感じた。2人のキャラクターが伝わる発表であった。すでに事後活動している点がすばらしいと思った。
- ・山梨の皆様の頑張りに頭が下がります。
- ・昔の自分を思い出し懐かしくなった。活動報告も改めて聞くことができ良かった。皆さん発表が上手で尊敬する。
- ・コロナ明け一発目の事業で、現在の事業スタイルを知りつつ、山梨県で活動されている事後活動の内容を知ることができた。ゆっくりとアクティビティを実施する山梨スタイルは他県でも参考になると思う！
- ・2人の報告が型にはまりすぎず、また今後はこの活動をどう活かしていきたいのか盛り込まれていてよかった。
- ・私自身は航空機の派遣経験しかないのに船の派遣の経験を聞いたのは興味深かった。コロナを経て事業が変わったところもあるが、変わらない刺激を知った。
- ・継続的にOne山梨でホームステイなど受け入れている活動は、他の県の良い模範。調整など多々大変な点もあると思いますが矢印が皆さん同じ方向に向いていて、一体感を感じた。

- ・既参加青年が、派遣での経験で終わることなく、次への抱負や目標を具体的に持ち、行動しようとしている姿がすばらしいと思った。また、山梨県IYEOの温かく、アットホームな雰囲気でも活動しておられ、息が長く続く活動につながっているのだなと感じた。
- ・事業参加報告会の発表をしてくれた2人がとても良かった。男性報告者は間をとるのが上手で、女性報告者は心に染み入る落ち着いた声で報告してくれて、2人がどのようなことを感じ、今後に活かしたいかなどを聞くことができ良かった。ぜひ事後活動につなげてほしい。
- ・山梨県IYEOの活動報告会はテンポよく、チャキチャキ説明してくれたので、説明がわかりやすく、よくまとまっていた。

⑨ 懇親意見交換会の満足度

設問：「懇親意見交換会の満足度を5段階（とても満足、やや満足、どちらともいえない、やや不満、とても不満）で評価してください。」

懇親意見交換会に参加した54名のうち94%にあたる51名が「とても満足」または「やや満足」と回答した。



■とても満足 ■やや満足 ■どちらともいえない ■やや不満

⑩ 懇親意見交換会に対する意見・感想（抜粋）

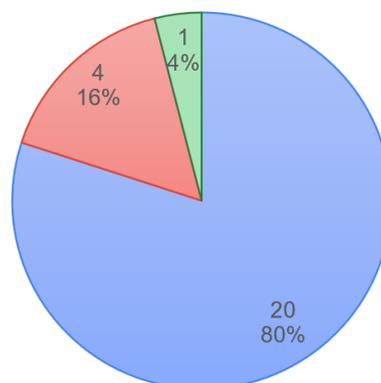
- ・山梨の名物料理があると嬉しかった。研修施設なので難しいですが、
- ・いろいろな出会いや再会があって楽しかった。
- ・久しぶりに会えた方や初めてお話しする方もいてとても楽しい時間だった。やはりIYEOは居心地が良い私の居場所だと感じた。
- ・講師の方や様々な方とお話しできるので、とても嬉しかった。
- ・レクリエーションや発表など、参加者同士が自然に交流する仕掛けがあるとよかったと思った（特定の人としか話せなかったため）。値段がちょっと割高に感じた。
- ・全国に国際交流を意欲的に行っている方がたくさんいらっしゃることを知り刺激的でした。
- ・初めて会う方々ともたくさんお話しできた。
- ・たくさんの方とお話できてよかった。山梨県IYEOの方や、分科会講師の方々が気さくに話してくださり、山梨のお勧めの観光地を丁寧に教えてくださり、おかげさまで山梨を堪能することができた。九州メンバーで、ぶどうの丘でワインを購入、勝沼トンネルワインカーヴ、吉田のうどん、大善寺など、満喫した。また山梨に来たいです！

- ・初めての参加でしたが、どなたとお話してよいのか分からず、最初困った。最初だけでも、グループが決まっていて、自己紹介→交流→その後他のテーブルの方ともお話という形で交流できた方が初めての人にとってはありがたかった。
- ・いろいろな事業の参加者と話ができて、有意義な時間だった。

⑪ オプショナルツアーの満足度

設問：「オプショナルツアーの満足度を5段階（とても満足、やや満足、どちらともいえない、やや不満、とても不満）で評価してください。」

オプショナルツアーに参加した25名のうち96%にあたる24名が「とても満足」または「やや満足」と回答した。



■とても満足 ■やや満足 ■やや不満

⑫ オプショナルツアーに対する意見・感想（抜粋）

<富士山ツアー>

- ・赤いコキアが見られてよかったですし、大石公園の散策も楽しかった。
- ・天候の都合で富士山は見られなかったが、とても楽しかった！
- ・山梨県の観光地はインバウンドすごいことになっているのを目の当たりにし、ある意味大変だなあと実感させていただいた。と同時に、多くの観光客を楽しませる工夫がされており、素晴らしいと思った。

<ソーシャルハウス宝島ツアー>

- ・宝島さんをお尋ねし、運営についてのご苦労や始めた経緯など聞いた。またフリースクールの子供たちやおばあちゃんたちのお料理の活動のビデオを見せていただき興味深かった。
- ・「実家のばあちゃんち」的雰囲気は誰でも一番安心できる空間なんだと思った。
- ・今後自分には何ができるのか等考える良いきっかけになった。
- ・地域で活動する人の話を聞くというのは社会科見学らしさがあった。事後活動ならではの機会と面白さだと思った。

⑬ その他、全体を通じての意見・感想（抜粋）

- ・全国大会、行ってよかった。色々な人と交流でき充実した時間が過ごせた。また富士山を間近で見たのは初めてで嬉しかった。

- ・ 実行委員の皆さんが、想いを込めて準備いただいたことが運営から伝わった。多種多様な分科会、参加者がゆっくり話せる懇親会や会場選びまで、大変居心地良い空間だった。
- ・ 美しい富士山に会うことができうれしかった。
- ・ 実行委員の皆さんがバンダナを身につけていたのは分かりやすくていいなと思った。
- ・ IYEO愛溢れるすばらしい会に参加させていただきありがとうございました。県知事、会長のご挨拶も、ユーモアにあふれ、また本当にその通りだなと思った。また、お子さんも活躍していて（会場準備とか）すごかったです。何より印象に残ったのはそれぞれの関わりで参加しているみなさんがステキな方ばかりだった！
- ・ 今回、中学2年の娘と一緒に初めて参加させていただいた。会全体の内容を通して本当に興味深く、有意義な時間になった。個人的にも海外の文化を理解し体験することが好きなので、子供にも今回の会をきっかけに国際交流について深く興味をもってもらえると思った。
- ・ 実行委員の皆さんお疲れ様でした。富士の麓でこんないい大会を開催していただき感謝。
- ・ 集合写真を富士山バックで撮影したかった。
- ・ 他の分科会もたいへん興味があった。可能であれば一部でも動画や画像で共有できればありがたいと思う。またできることなら、もっと中高生にも参加していただけたらと思う。
- ・ 参加させていただき、あらためて全国大会のすばらしさや、IYEOのネットワークは素敵だなと思った！スムーズに会が進むようにいろいろと工夫されたんだと感じた。
- ・ お疲れ様でした。山梨県IYEOの皆さんのチームワークとホスピタリティを感じる大会だった。
- ・ 富士山も見えたし会議室と宿泊が離れすぎずいい場所だった。多くの山梨県IYEOメンバーが活躍していてすばらしかった。
- ・ 今回全国大会に久しぶりに参加しましたが、とてもエネルギーに溢れていて参加して良かった。準備は大変だったと思いますが参加者としては大満足。あと、研修所のためクオリティは正直期待していなかったのですが、ホテルみたいに綺麗ですばらしい選択だった！
- ・ 富士山の麓という場所で、すばらしい講演と分科会を提供してくださり、ありがとうございました。これだけの充実したプログラムを企画・運営するのはとても大変だったのではないかと思います。山梨県IYEOの皆様の情熱とチームワークの良さを非常に感じた。
- ・ 初めての全国大会でしたが、非常に楽しかった。仕事やプライベートでは感じることでできない新たな発見や気づきがあった。
- ・ この全国大会を機に、富士吉田市について親近感がわくとともに、好きになりました。

会場周辺図

1. 会場周辺図

周辺道路案内（広域）

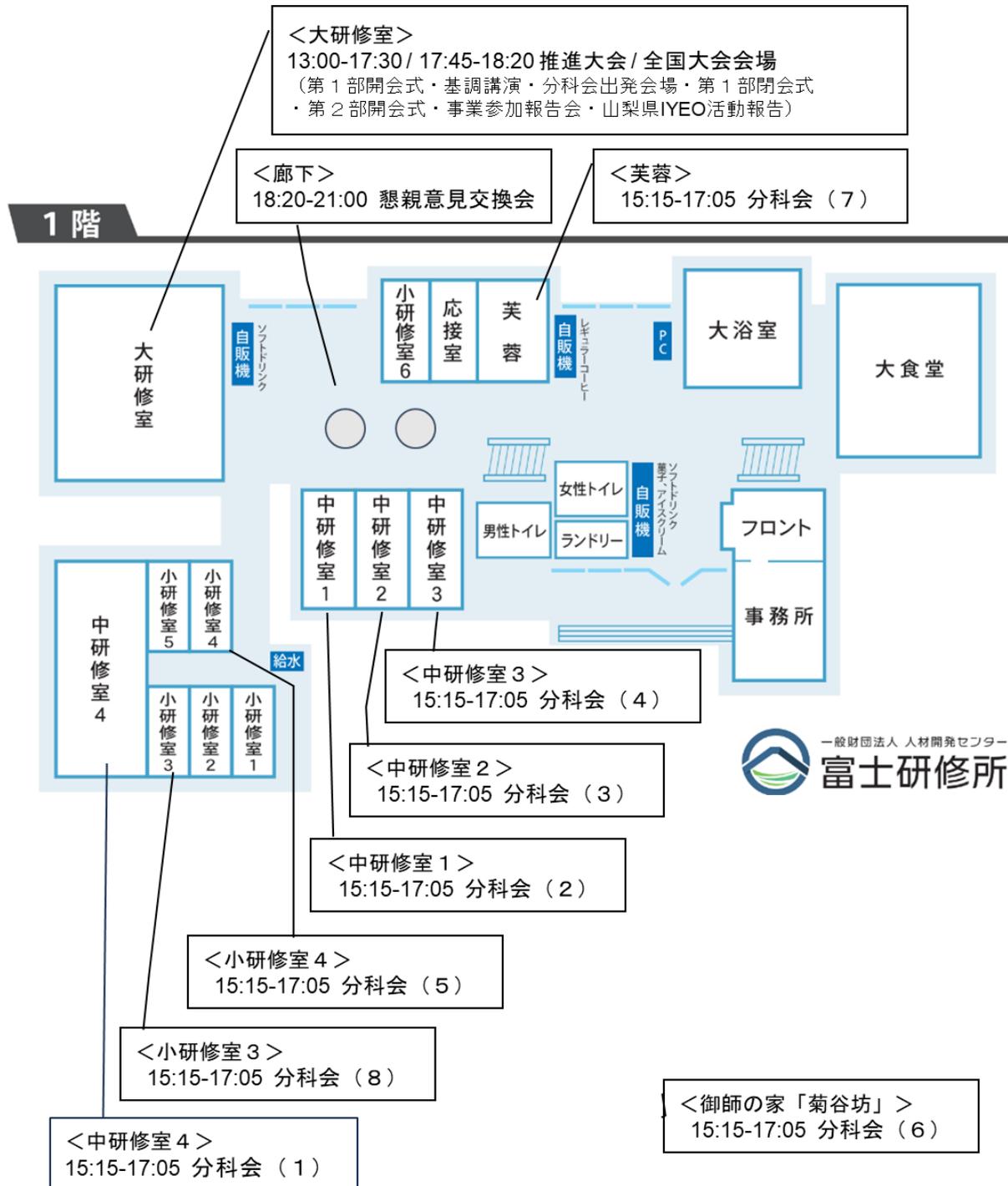


周辺道路案内（近隣）



青少年国際交流事業事後活動推進大会・日本青年国際交流機構第40回全国大会
第31回青少年国際交流全国フォーラム 会場
一般財団法人人材開発センター富士研修所 〒403-0006 山梨県富士吉田市新屋5丁目1-1

会場図



山梨県の紹介

山梨県は、日本列島のほぼ中央に位置する内陸県で、富士山、八ヶ岳、南アルプスなどの山々に囲まれた地形「盆地」です。県土の約78%を森林が占める全国有数の森林県で、日照時間が長く、降水量が少ない、また朝夕及び夏冬の気温差が著しい盆地特有の気候です。雄大な自然に恵まれた山梨は、名水や緑の大地、温泉など自然の恵みを堪能する事ができ、豊富な水と太陽の恵みが育んだ様々な農産物、ワインやジュエリー、織物など地場産業も盛んです。



実行委員名簿

1. 実行委員長	佐野 康子	2003年度	第16回「世界青年の船」事業
2. 副実行委員長	村松 智子	2004年度	第31回「東南アジア青年の船」事業
3. 実行委員	松川 裕子	1991年度	第18回「東南アジア青年の船」事業
4. 実行委員	村松 聡	2005年度	第32回「東南アジア青年の船」事業
5. 実行委員	片山 奈桜子	2017年度	第24回国際青年育成交流事業 (ドミニカ共和国派遣団)
6. 実行委員	石河 一郎	2017年度	第30回「世界青年の船」事業
7. 実行委員	小池 茉那	2014年度	グローバルリーダー育成事業 「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」
8. 実行委員	平新 丞	2022年度	第34回「世界青年の船」事業
9. 実行委員	田中 愛子	2023年度	第35回「世界青年の船」事業
10. 実行委員	関 和美	2003年度	第16回「世界青年の船」事業
11. 実行委員	中澤 綾	1994年度	第7回「世界青年の船」事業
12. 実行委員	小林 晴子	2007年度	第34回「東南アジア青年の船」事業
13. 実行委員	志村 卓史	2014年度	グローバルリーダー育成事業 「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」
14. 実行委員	楠山 紀子	2005年度	第12回国際青年育成交流事業 (チリ共和国派遣団)
15. 実行委員	早川 侑希	2007年度	第14回国際青年育成交流事業 (バルト三国派遣団)
16. 実行委員	渡辺 千津子	1992年度	第5回「世界青年の船」事業